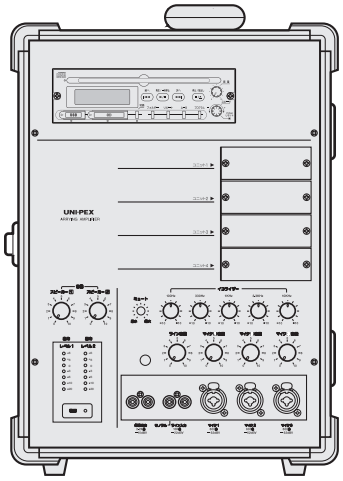
UNI-PEX

取扱説明書(保証書付)



定格出力70W／CDプレーヤー付

キャリングアンプ

CGA-704CDA

このたびは、キャリングアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

●ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
●お読みになったあとは、必ず保存してください。

ご注意

音源ファイルについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますので、ご使用に際しては充分ご注意ください。

目次

安全上のご注意……1～3
設置・使用上のご注意……4
各部の名称と説明(前面)……5、6
各部の名称と説明(後面)……7
スピーカーの接続方法……8
別売ワイヤレスチューナーユニットの説明……9～11
接続例……12
キャノンタイプコネクターの説明……13
CDプレーヤー部の説明……14～31
点検方法……32～34
定格……35
外観寸法図……36
サポートのご案内……36
保証書……36

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。

分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。

異物を入れない／濡らさない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。)

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

通風孔をふさがない
通風孔をふさぐ、ものを掛けたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。

電源コードを傷つけない
電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない
こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。

ACサービスコンセントに接続する機器の消費電力の合計は、機器に表示しているW数またはA数を超えない。
火災の原因となります。音響機器以外は接続しないでください。

AC接続コードは機器に付属の物、または指定の物以外は使用しない
火災・感電の原因となります。

屋外で使用中に雷が鳴り出したら、使用しない
落雷の原因となります。使用を中止し、機器から離れてください。

表示部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない
事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。

ワイヤレスマイクを危険作業の誘導などに使用しない
場所や距離や周囲の雑音条件によっては電波が到達しなかったり、瞬間的に電波が遮られたりして放送が途切れたりして、作業の指示などが完全には伝達できない場合があり、事故の原因となることがあります。

定期点検を実施する
専門の業者（技術者）による定期点検を実施してください。特に経年劣化には充分ご注意ください。
異常があれば、ただちに使用をやめ、販売店などにご連絡ください。

取付作業、及びお手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜け

SDカードやUSBメモリーは、乳幼児の手の届くところに置かない
誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない
火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

異常に温度が高くなる場所に放置しない
窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
火災の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜け

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない また、タバコなどの火を近づけない
部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

濡れた手で、電源コードを抜き差ししない
感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。

使用中又は使用後すぐに放熱器にさわらない
放熱器が熱くなっている場合がありますので、やけどの原因となることがあります。

使用中は筐体ふたを取り付けない
内部に熱がこもり火災の原因となります。

移動の際は必ず筐体ふたを確実に取り付けて持ち運ぶ
落下やけがの原因となることがあります。

移動の際は必ず正立した状態で移動する
故障して、火災などの原因となることがあります。

移動するときは、コード類を傷つけない
移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜け

この機器に乗ったり腰掛けたりしない
特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

CD・SDカード・USBメモリー挿入口に異物を入れない
火災や感電の原因となることがあります。

廃棄は専門業者に依頼する
燃やすと化学物質などで目を傷めたり、火災ややけどの原因となります。

オーディオ機器、外部スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。

1年に一回程度は、内部の掃除を販売店や工事店などにご相談ください。内部にほこりがたまった状態で、長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご依頼先にご相談ください。

設置・使用上のご注意

●本機を使用するときは本箱など箱状の中に入れて使用しないでください。必ず、風通しの良い場所に置いて使用してください。
●本機を水滴または飛沫のかかる場所で使用しないでください。
●使用中に強い衝撃や振動を加えないでください。音切れや故障の原因となることがあります。
●本機を雑音発生の原因になる機器（場所）※の近くには設置しないでください。
※高周波機器（乾燥機,医療機器など）、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器（コンピューター、電子楽器など）、空気清浄器など。
●スピーカーコードとマイクロホンコードは束ねずに離して使用してください。

遮断装置について

●本機は電源プラグが遮断装置になります。
●本機は遮断装置へ容易に手が届くように、電源コンセントの近くで使用してください。

移動(輸送)時について

●本機の移動時は前面と後面にふたを確実に取り付けてください。前面には、「UNI-PEX」のロゴマークが印刷されたふたを取り付けてください。
また、移動時に横倒しにしたり、上下逆にしないでください。必ず正立した状態で移動してください。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
①お客さまの故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など
②本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
③本製品のお客さまご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害
④本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害
⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

本機を長期間お使いの場合

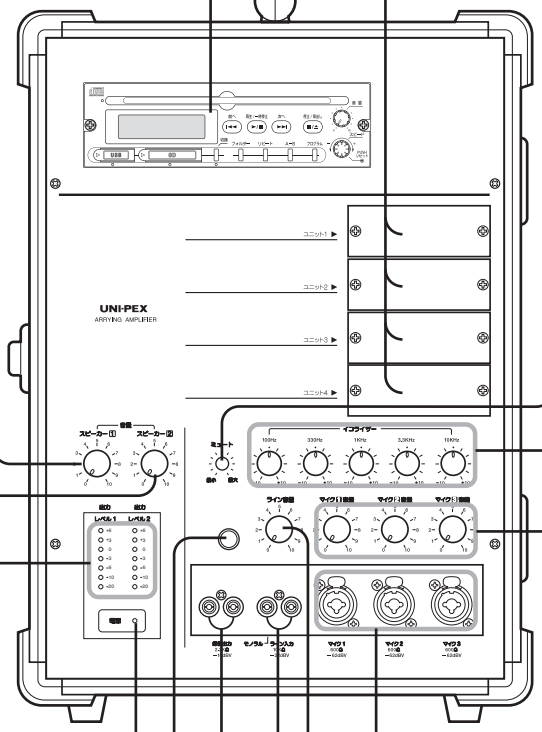
本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記❶～❹の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちに電源を切り（使用中止）、販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

❶煙が出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。
❷接続コード・コネクターが異常に熱い。または亀裂や傷がある。
❸本機に触れるとビリビリと電気を感じる。
❹電源を入れても音が出てこない、その他の異常・故障がある。

長時間使用について

●CDの連続使用時間の保証は、1,500時間です。

各部の名称と説明（前面）



スピーカー出力1 音量調節つまみ

スピーカー出力1に接続されたスピーカー出力の音量を調節します。

スピーカー出力2 音量調節つまみ

スピーカー出力2に接続されたスピーカー出力の音量を調節します。

ご注意…

マイクへ過大入力が入ったときや、各入力・CDプレーヤーユニットの音量調節つまみを上げ過ぎますと、スピーカー出力(1/2)とライン出力から歪んだ音が出力されます。そのような場合はマイクを口元から離すか、各入力・CDプレーヤーユニットの音量調節つまみを各々歪まないように調節してください。スピーカー出力(1/2)音量調節つまみを絞っても歪んだ音は変わりません。

スピーカー1/2出力表示灯

スピーカー出力1/2の音量をそれぞれ表示します。赤色のLEDが点灯しないように各音量を調節してください。

電源表示灯

本機の電源が入ると緑色に点灯します。

リミッター動作設定ジャンパーピン（ゴムキャップ）

リミッター機能を解除する場合はこのゴムキャップをはずし、内部のジャンパーピンを差し換えてください。P6のリミッター機能についてをご覧ください。

録音出力

（−10dBV 2.2kΩ 不平衡）

録音機器などを接続してください。この出力はモノラルです。接続機器がステレオタイプの場合はL／Rに関係なく接続してください。

CDプレーヤー部

P14〜31のCDプレーヤー部の説明をご覧ください。

取手

ブランクパネル

（ユニット取付部）

別売のワイヤレスチューナーユニット、または入力ユニットEU-300、デジタルレコーダーユニットSDU-100を合計4台まで組み込むことができます。P9〜11のワイヤレスチューナーユニットについての各説明をご覧ください。

フェーダー減衰量調節つまみ

P6のオートマチックフェーダー回路についての説明をご覧ください。

イコライザー音質調節つまみ

P6の音場補正イコライザーの説明をご覧ください。

マイク1/2/3音量調節つまみ

本機のマイク1/2/3入力に接続されたマイクロホンの音量を調節してください。

マイク1/2/3入力

（−62dBV 600Ω 電子平衡）

マイクロホンの接続にはキャノンタイプコネクター、及び大形単頭プラグが使用できます。プラグの抜けなどのトラブルを防ぐためにキャノンタイプコネクターの使用をおすすめします。P13のキャノンタイプコネクターの説明をご覧ください。

ライン音量調節つまみ

ライン入力に接続された機器の音量を調節してください。

ライン入力（−22dBV 10kΩ 不平衡）

CD、カセットデッキや各種プレーヤーを接続してください。本機はモノラルですのでステレオで入力された音もモノラル出力になります。又接続するピンジャックが片方の場合は「モノラル」側に接続してください。

オートマチックフェーダー回路について

●本機はオートマチックフェーダー回路付です。マイク放送(ワイヤレスマイク放送も含む)時には、内蔵のCDプレーヤーユニットやライン入力のミュージック放送の音量を自動的に減衰します。
(図1参照)
●減衰量はフェーダー減衰量(ミュート)調節つまみで調節する事ができます。右へ回すと、減衰量が大きくなり、左へ回すと小さくなります。(図2参照)
●マイク放送が終わるとミュージック放送の音量が自動的に元の音量に戻ります。

図1

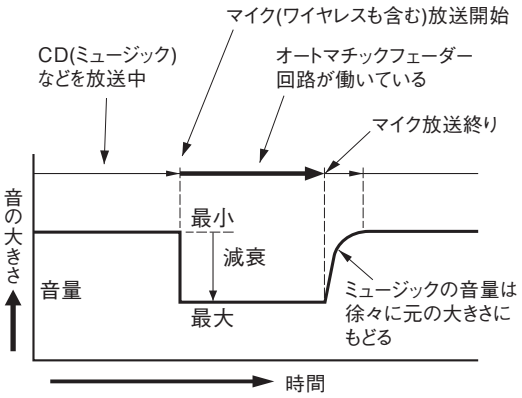
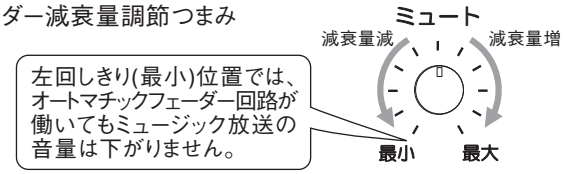


図 2 ●フェーダー減衰量調節つまみ

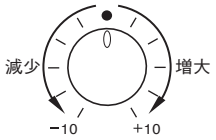


音場補正イコライザーの説明

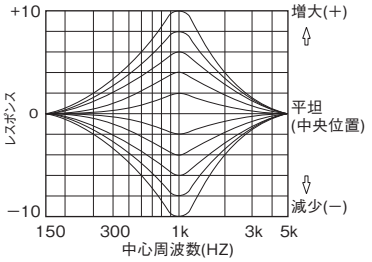
●5ポイントの各周波数(100Hz/330Hz/1kHz/3.3kHz/10kHz)でのレベルを十10dB〜ー10dBまで連続的に変化させるための調節つまみです。各音場に合わせ、5ポイントの周波数特性を、必要に応じて補正することにより、マイク放送時のハウリング(キーンという音が出る)を抑えたり、反響の多い場所で明瞭度を上げるのに効果があります。

周波数特性のレベル調節とめやす

イコライザー調節つまみ



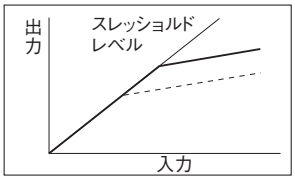
○つまみ位置が中央でフラットな周波数特性です。
○つまみを「+」方向でレベルが最大10dB増大します。
○つまみを「ー」方向でレベルが最大10dB減少します。



リミッター機能について

●マイク回路(マイク入力1/2/3、ワイヤレスマイク4系統※)への過大入力時のひずみやハウリングなどを軽減するリミッター機能が組み込まれています。(※別売ユニット組込時)

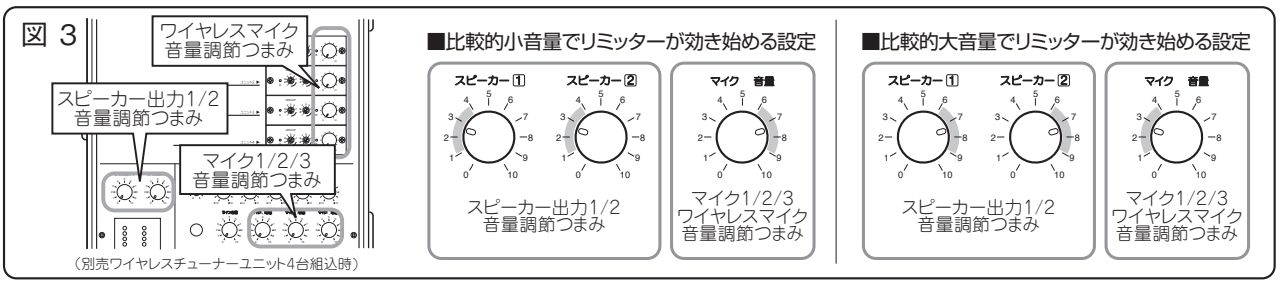
ご注意・・工場出荷時は「リミッター動作オン」に設定しています。本機のリミッター機能を有効にご使用いただくため、下記の項目をお読みになり適切な設定の上ご使用ください。



●リミッター機能を効果的にご使用いただくために

本機のマイク入力は、マイク音量調節つまみとスピーカー出力1/2音量調節つまみの両方で出力レベル(スピーカーの音量)を調節するようになっています。図3のような各つまみの位置に設定することで、リミッターが動作しはじめるマイク入力のレベルを調節することができます。使用状況に合わせ各音量調節つまみを設定してください。

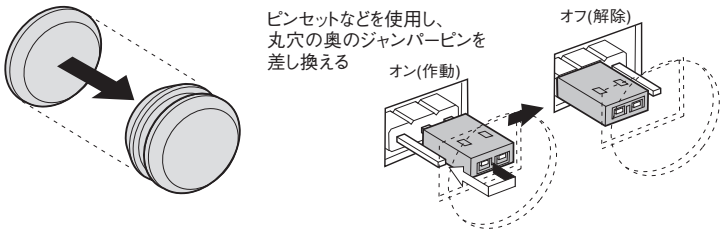
図 3



●リミッター動作の解除について

ご使用状況などによりリミッター機能を解除される場合は、次の要領で「リミッター動作設定ジャンパーピン」の差し換えをおこなってください。(図4参照)

図 4 ❶ゴムキャップを取り外す ❷内部のジャンパーピンを差し換える



各部の名称と説明(後面)

アンテナ感度切換スイッチ

ワイヤレスチューナーユニット組込時、アンテナの感度を使用状況に合わせてハイ／ローを選択してください。出荷時のスイッチ設定は"ハイ"(従来性能)になっていますが、1)～4)の場合は"ロー"に切り換えて感度を落としますと、混信を防ぐことができます。

1) 他のグループのマイクを近接場所(30m以上離れた場所)で同時に使用する場合。
2) 同一グループのマイクを近接場所(100m以上離れた場所)で同時に使用する場合。
3) 受信アンテナの設置場所によって、マイクが2m以内の距離に接近する場合。
4) その他、電波障害による混信がある場合。

ご注意…アンテナ感度切換スイッチを"ロー"に切り換えた場合、ワイヤレスマイクの通達距離は1/2～1/3に減少します。

放熱器

⚠注意

使用中又は使用後すぐに放熱器にさわらないでください。放熱器が熱くなっている場合がありますので、やけどの原因となることがあります。

電源スイッチ

このスイッチを押すと電源が入ります。

AC電源入力端子

付属のAC接続コードを使用し、ACコンセントに接続してください。

⚠警告

付属又は指定の接続コード以外はご使用にならないでください。火災・感電の原因になります。

サービスコンセント(非連動)

音響機器以外は接続しないでください。

⚠警告

接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。火災の原因になります。

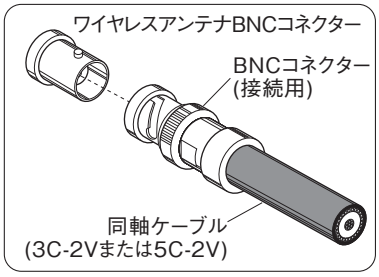
DC電源入力端子

DC電源で使用するときにDC14.0V(12Vバッテリー)電源を接続します。

- ●DC電源を接続するときは、端子カバーの両端のねじをはずし、端子カバーを取り外してください。接続が終わりましたら、必ず端子カバーを元の状態に取り付けてください。
- ●DC電源使用時の定格電圧は14.0V、定格出力時消費電流は11Aです。
- ●DC電源接続コードは、断面積2.0mm^{2}以上で、コード長さは5m以内のものをご使用ください。又故障の原因となりますので接続するときは、+/−をよく確かめて、ショートしないように充分ご注意ください。

ワイヤレスアンテナBNCコネクター(A/B)

ワイヤレスチューナーユニット組込時、ワイヤレスアンテナを接続します。接続には必ずBNCコネクターをご使用ください。P10のアンテナ設置上のご注意をご覧ください。



ご注意…
BNCコネクターからはファンタム電源が出ています。ショートさせないようご注意ください。又指定のワイヤレスアンテナ以外は接続しないでください。簡易型ワイヤレスアンテナはAA-382(別売)をご使用ください。

スピーカー出力1/2

4Pキャノンタイプコネクターです。P8のスピーカーの接続方法をご覧ください。

アース端子

このアース端子は他の音響機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アース(接地用)ではありません。

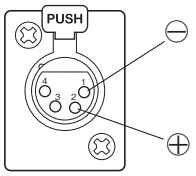
ライン出力ジャック

(0dB 600Ω 不平衡)
増設アンプなどを接続してください。

スピーカーの接続方法

ローインピーダンススピーカーの接続

図 1



●EWS-50Cを使用される場合、接続には別売のキャノンタイプコネクター付スピーカーコードLS-1204※（20m）をご使用ください。

※LS-1204はロー／ハイインピーダンス兼用のスピーカーコードです。

●EWS-120（防滴形）を使用される場合、接続にはEWS-120に付属の防滴コネクター（ノイトリック製　NLT4FX-BAG）付スピーカーコード(20m)をご使用ください。

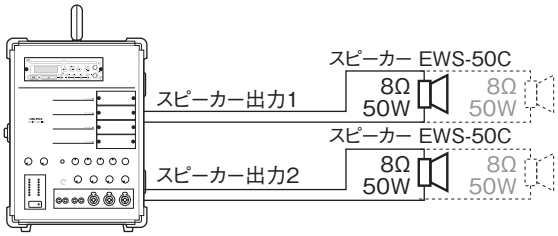
●ローインピーダンス出力は図1のようにコネクターに結線されています。（詳しくはP13のキャノンタイプコネクターの説明をご覧ください。）

●本機のスピーカー出力1／2に各々接続できるスピーカーは下表のとおりです。

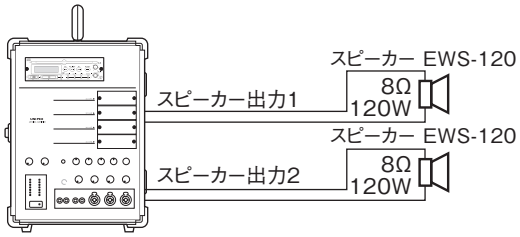
適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
4Ω～16Ω	35W以上

図 2 接続例

●各スピーカー出力にEWS-50Cを1～2台接続



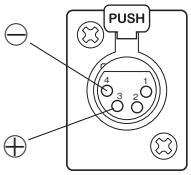
●各スピーカー出力にEWS-120を1台接続



特にご注意を..
●ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
●多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが4Ω以下にならないようにしてください。
●使用するスピーカーの定格入力は、スピーカー1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

ハイインピーダンススピーカーの接続

図 3



●ハイインピーダンススピーカーを接続する場合は別売のキャノンタイプコネクター付スピーカーコードLS-1204※（20m）を使用してください。

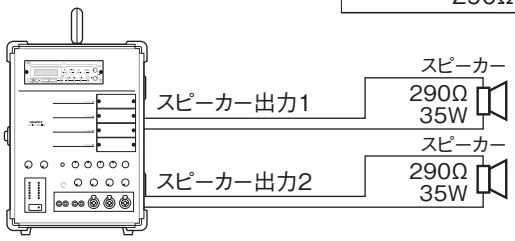
※LS-1204はロー／ハイインピーダンス兼用のスピーカーコードです。

●ハイインピーダンス出力は図3のようにコネクターに結線されています。（詳しくはP13のキャノンタイプコネクターの説明をご覧ください。）

●本機のスピーカー出力1／2に各々接続できるスピーカーは下表のとおりです。

適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
290Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が35W以内

図 4　接続例



特にご注意を..
●スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。
●スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
●ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
●**感電に注意!**出力端子には、定格出力時に100Vの電圧がかかります。

別売ユニットの取付方法　（取付ユニットの取扱説明書も合わせてご覧ください。）

●本機は別売のワイヤレスチューナーユニット、または入力ユニットEU-300、デジタルレコーダーユニットSDU-100を合計4台まで組み込むことができます。（下表参照）　取付は販売店または、最寄りのユニペックス営業所にご相談ください。

◇適合ワイヤレスチューナーユニット

形　　式	受信周波数帯	品　　番
ダイバシティ	800MHz帯	DU-8200
ダイバシティ	300MHz帯	DU-3200A
シングル	300MHz帯	SU-3000A

※DU-8030は組込不可

1.ブランクパネルをはずす

本機の電源プラグをコンセントから抜き、ブランクパネルをはずしてください。ブランクパネルの裏側には4Pコネクターと同軸コネクター（A）が差し込まれていますので、それらをブランクパネルから取りはずしてください。（図1参照）

⚠警告　ご使用中は、感電の恐れがありますので、ブランクパネルをはずさないでください。ブランクパネルをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

2.各コネクターをワイヤレスチューナーユニットに接続する

◎各コネクターを接続する前に、必ず4Pコネクター部の番号表示とユニット挿入口右側の番号が合っているか確認してください。

◇ダイバシティワイヤレスチューナーユニットを組み込む場合は、図2のように本機側とユニット側の同軸コネクター及び4Pコネクターを接続してください。同軸コネクターは必ず、同じ表示（A･B）のものと接続してください。また同軸コネクター（B）の保護チューブは接続前にはずしてください。（図3参照）

※入力ユニットEU-300、デジタルレコーダーユニットSDU-100を取り付ける場合

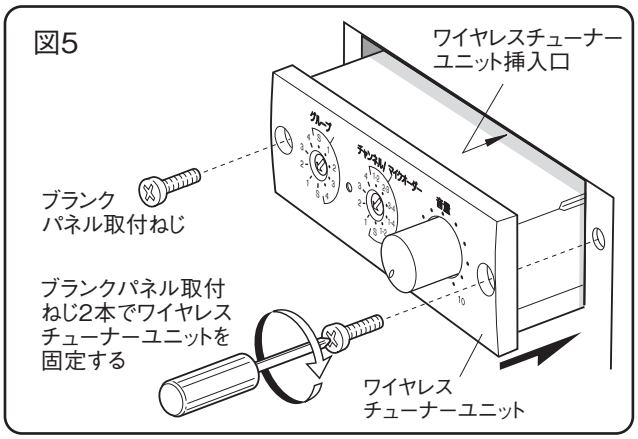
EU-300、SDU-100を取り付ける場合も同様の取付手順で接続してください。

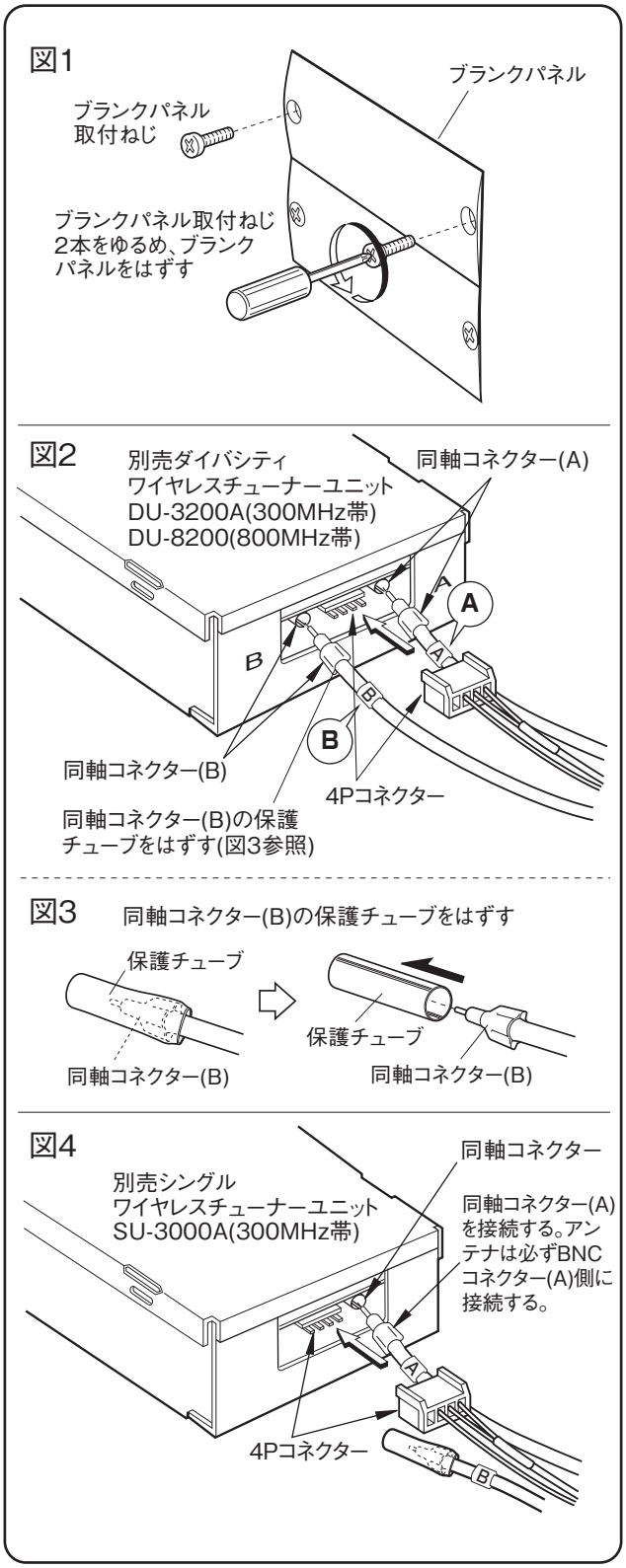
◇シングルワイヤレスチューナーユニットを組み込む場合は同軸コネクター（A）と4Pコネクターを接続してください。（図4参照）

※ワイヤレスアンテナは必ずBNCコネクター（A）側に接続してください。

3.ワイヤレスチューナーユニットを組み込む

ワイヤレスチューナーユニットを本機のワイヤレスチューナーユニット挿入口に挿入し、ブランクパネルを取り付けてあった2本のねじで固定してください。（図5参照）



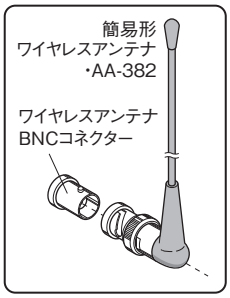


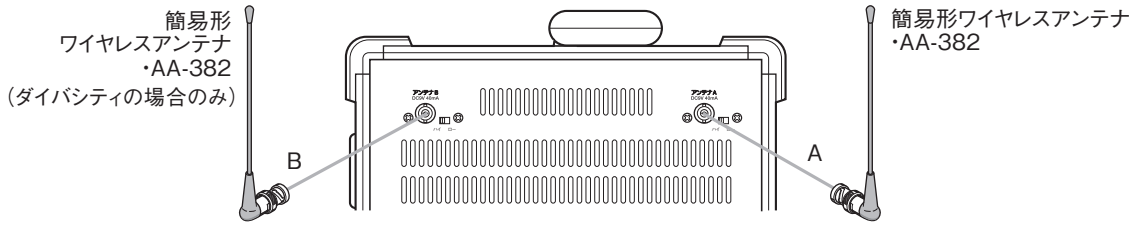
ご注意..　●ブランクパネルから4Pコネクターをはずす際は、ブランクパネルのロックのつめをはずしてから取りはずしてください。またワイヤレスチューナーユニット挿入時は、接続コードをはさみ込まないように注意してください。

アンテナについて

■簡易形ワイヤレスアンテナ(AA-382)の接続のしかた

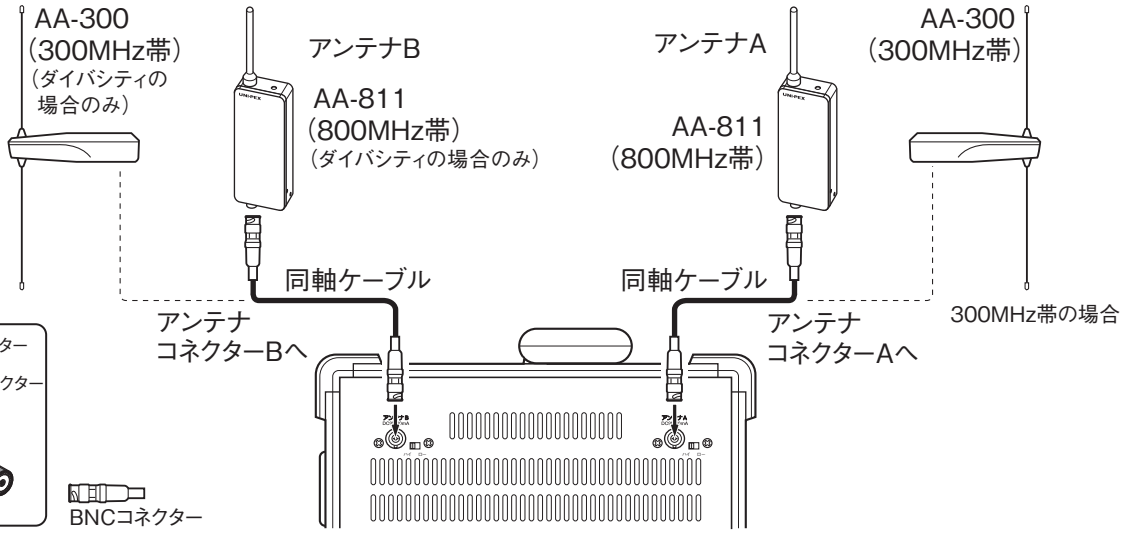
●ワイヤレスマイクの移動する範囲内でアンテナのロッドが見えるように、本機背面のアンテナ端子A、アンテナ端子Bに垂直に取り付けてください。(800MHz帯／300MHz帯混用可)

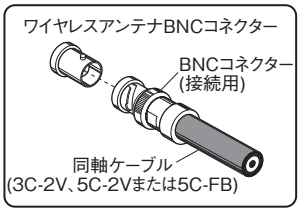




■設置形ワイヤレスアンテナ(AA-811/AA-300)の接続のしかた(設置例)

●本機が接続できるアンテナは最大2本です。(800MHz帯／300MHz帯混用不可)





BNCコネクター

アンテナ設置上のご注意

●下記表を参考にしてワイヤレスチューナーユニットに合ったワイヤレスアンテナを接続してください。

ワイヤレスチューナーユニット	受信周波数帯(形式)	適合アンテナ品番		アンテナ接続コネクター
DU-8200	800MHz帯(ダイバシティ)	AA-382	AA-811	A / B
DU-3200A	300MHz帯(ダイバシティ)		AA-300	A / B
SU-3000A	300MHz帯(シングル)			A

●ワイヤレスアンテナを設置する前に、あらかじめアンテナを仮設し、ワイヤレスマイクの移動範囲内で受信テストをおこないデッドポイントが最も少ない所を選んでください。

●雑音や妨害電波を避けるため、下記のような機器(場所)の近くには設置しないでください。
高周波乾燥機、高周波医療設備、電気熔接機、ブラッシングモーター、デジタル機器(コンピューター・電子楽器)、自動車(道路)、静電式空気清浄器など。

同軸ケーブルについてのご注意

●アンテナを接続する前に、同軸ケーブルの配線がショートしていないことを確かめてください。ショート状態で電源スイッチを入れると機器を傷めることがあります。

●同軸ケーブルとBNCコネクターの接続、またはアンテナに直接ねじ止めする場合は接続が完全におこなわれていないと、高周波損失を招き電波伝送に大変悪い結果をもたらします。充分ご注意ください。

●アンテナと本機との距離が長くなると、減衰が大きくなり受信状態が悪くなります。下記表を参考にして、使用する同軸ケーブルをお選びください。

使用可能同軸ケーブル	3C-2V(※300MHz帯に限る)	5C-2V	5C-FB
延長可能距離(800MHz帯/300MHz帯)	――― /約25m	約20m/約40m	約40m/約80m
使用コネクター	BNCコネクター 別売AW-01／AW-02(AW-12)		

アンテナとワイヤレスマイクの関係について

●同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクとワイヤレスアンテナの距離は約2m～10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。その場合は本機のアンテナ感度切換スイッチ、またはワイヤレスアンテナ内部のスイッチをローに切り換えてください。（詳しくはP7のアンテナ感度切換スイッチの説明をご覧ください。）

●ワイヤレスマイクを2本以上ご使用の場合は、マイクロホンどうしは50cm以上離してください。他の受信機へ混信することがあります。

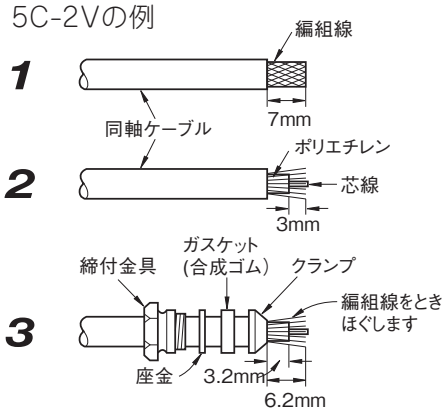
注) 使用中のワイヤレスマイクと同一周波数の他のワイヤレスマイクを「ON」にすると「ピー」という音がすることがあります。チャンネル（周波数）を変更してご使用ください。

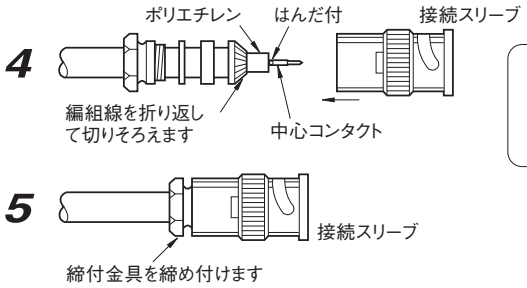
BNCコネクターと同軸ケーブルの接続のしかた（例）

●同軸ケーブルの処理具合により受信性能が大幅に変わります。この説明に忠実にしたがってください。また同軸コネクターは性能の良いBNCコネクターを使用してください。

注) 接続後、芯線と編組線がショートしていないことをテスターなどで確認してください。

5C-2Vの例





ご注意
中心コンタクトは、ポリエチレンとすきまのないようにして、ポリエチレンが溶けないように素早く芯線にはんだ付けをおこなってください。

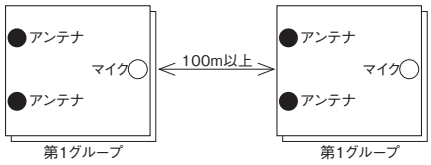
⚠注意 BNCコネクターや同軸ケーブルの配線をショートさせない。機器損傷の原因となることがあります。

ワイヤレスマイクシステムの設計・設置について

同一グループを近接場所で同時に使用する場合

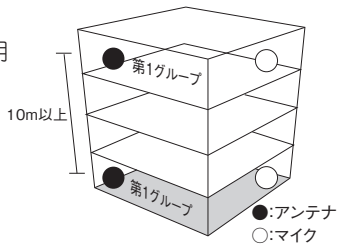
同一平面の場合

●お互いの使用場所を100m以上離してください。



階層が異なる場合

●鉄骨/鉄筋構造の場合、お互いの使用場所を垂直距離で10m以上離してください。
（木造の場合は不可）

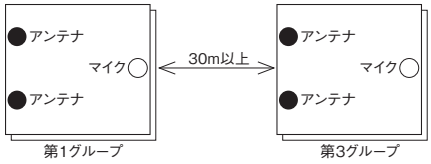


他のグループを近接場所で同時に使用する場合

例えば800MHz帯の第1グループ（B11～B16）と第3グループ（B31～B36）を近くで同時に使用する場合は、以下のような注意が必要です。

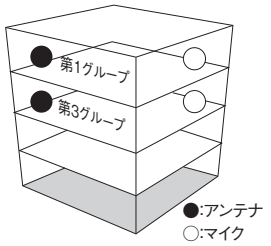
同一平面の場合

●お互いの使用場所を30m以上離してください。



階層が異なる場合

●鉄骨/鉄筋構造の場合、階層が異なれば、同一平面の場合のような制限はなく使用できます。
（木造の場合は不可）

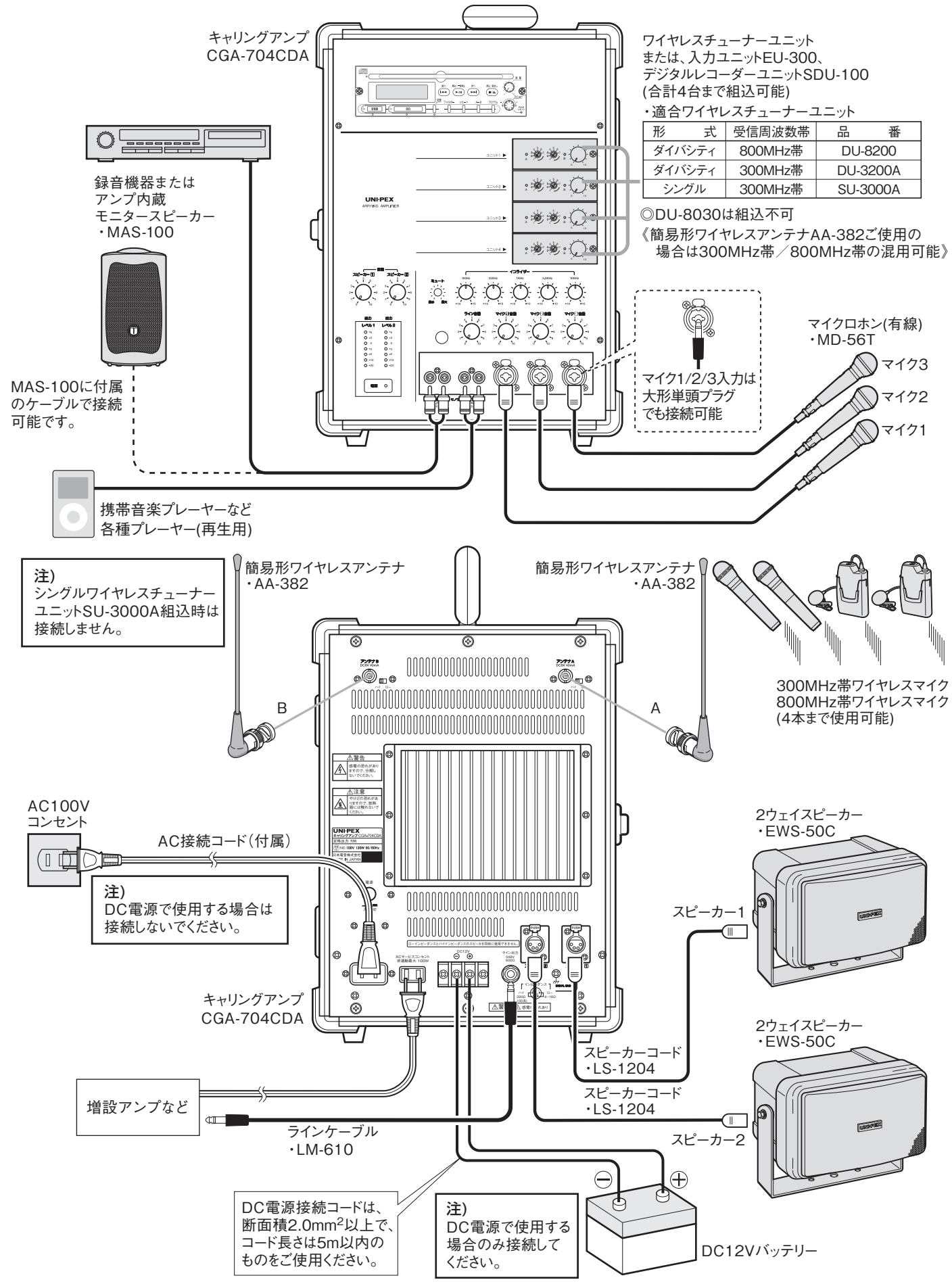


注:同一閉空間（仕切りは壁、戸、ガラス等）では、1つのグループ（800MHz帯では6chまで、300MHz帯では4chまで）しか同時使用できません。

●上記はユニペックスワイヤレスマイクシステムの基本的な説明です。

接続例

（下記以外の接続については、販売店などへご相談ください。）



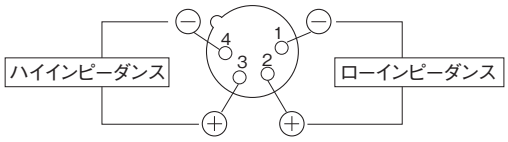
キャノンタイプコネクターの説明

●本機のマイク入力端子とスピーカー出力端子はキャノンタイプコネクター(XLR-3-31/XLR-4-31相当)です。

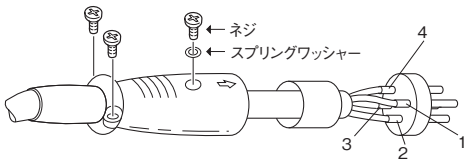
⚠注意 **配線を間違えない、ショートさせない。機器の損傷や火災・感電の原因となることがあります。**

結線図

●スピーカー出力用(XLR-4-12C相当)

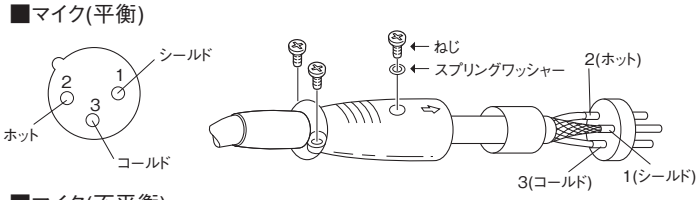


注) ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。

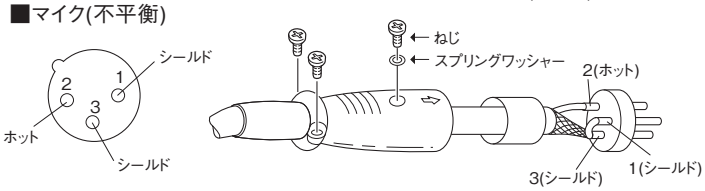


●マイク入力用(XLR-3-12C相当)

■マイク(平衡)

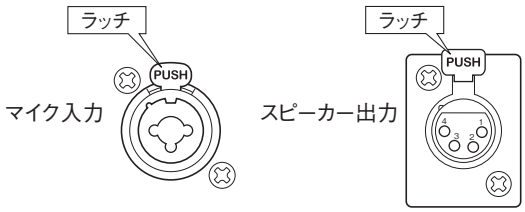


■マイク(不平衡)



接続のはずし方

●キャノンタイプコネクターの接続をはずされるときは、本機側のコネクターのラッチを押しながら抜いてください。



CDプレーヤー部（SD/USB付）の説明

14〜31頁は、本機に組み込まれているCDプレーヤーユニットについての説明です。
本機のCDプレーヤーユニットは音楽CDやCD-R/RW、SDカード、USBメモリーに収録された、多彩な音源ファイルを再生することができます。

音源ファイル再生上のご注意

音源ファイルについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますので、ご使用に際しては充分ご注意ください。

目　次

準備作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15〜17
□メディアの準備について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
□ご使用可能なメディアについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
□メディア内のファイルのバックアップについて・・・・・・・・・・・・・15
□音源ファイルの準備について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16、17
各部の名称と説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18、19
CD再生の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20、21
SDカード再生の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22、23
USBメモリー再生の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24、25
再生の仕方（CD・SDカード・USBメモリー共通）・・・・・・・・・・・・・26
リピート・ランダム再生の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
プログラム再生の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28、29
再生スピードの調節の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
著作権法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
コンパクトディスク（CD）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

準備作業

メディアの準備について

●本機のご使用にあたっては音楽CDやCD-R/RW、SDカード、USBメモリーを別途ご用意ください。
用意するにあたっては下記の点にご注意ください。

□音楽CD、CD-R/RWの準備について

・CD規格で使われているロゴタイプ（右記参照）がパッケージ等に明示されたものを使用してください。
・シングルCD(8cm CD)には対応していません。故障の原因になる場合がありますので使用しないでください。

音楽CD　CD-R　CD-RW

□SDカードの準備について

・SDカードは、SD規格で使われているロゴタイプ（右記参照）が明示されたものを使用してください。
・容量32ＧＢまでのSD/SDHCカードに対応しています。
・ｍｉｎｉSD/SDHCカードやｍｉｃｒｏSD/SDHCカードは使用しないでください。
アダプターの仕様により動作しないものがあります。
・SDXC（SD Extended Capacity）規格のSDカードには対応しておりません。

SDロゴ、SDHCロゴは商標です。

□USBメモリーの準備について

・USBマスストレージクラス準拠USBメモリーを使用してください。
容量32ＧＢまでのUSBメモリーに対応しています。
・USBハブやSDカードリーダーは使用しないでください。
正常に動作しない可能性があります。

ご使用可能なメディアについて

●一部のCD-R/RW、SDカード、USBメモリーは、本機器ではご使用頂けない場合があります。
その際は別のメディアを使用したり、新しいものに取り換えてお試しください。

メディア内のファイルのバックアップについて

・メディアに収録した内容は、機器の故障や誤った操作などにより失われることがあります。万一に備え、大切な音源ファイルは別の記録メディア（HDD・SDカード・USBメモリーなど）にバックアップしてください。また収録内容をメモして保存しておいてください。

準備作業

音源ファイルの準備について

CD-R/RW、SDカード、USBメモリーに収録する音源ファイルについては下記の点にご注意ください。

□メディアのフォーマット（初期化）について

・SDカードをパソコン等でフォーマットをする場合、SDメモリカードフォーマッター※を使用し、FAT形式でフォーマットしてください。

SDメモリカードフォーマッター　検索

※SDメモリカードフォーマッターは検索エンジンで検索してください。

・USBメモリーをパソコン等でフォーマットをする場合、パソコン等の画面に表示されるUSBメモリーのアイコンを右クリックしてフォーマットを選び、FAT形式でフォーマットしてください。
・市販のものをそのまま用いた場合、データが破損したり、正常に再生が行われない恐れがあります。

□音源ファイルのファイル形式について

		MP3	WMA※1
規格		MPEG-1 Audio Layer-3	Windows Media Audio Ver.9※2
拡張子		.mp3	.wma
サンプリング周波数		32kHz、44.1kHz、48kHz	44.1kHz
ビットレート※3		32k、40k、48k、56k、64k、80k、96k、112k、128k、160k、192k、224k、256k、320kbps	48k、64k、96k、128k、160k、192kbps
チャンネル		モノラル、ステレオ、ジョイントステレオ	モノラル、ステレオ
ファイルサイズ		2GB以内	
ファイル名・フォルダー名の最大文字数		ファイル名：半角英数字 32文字 フォルダー名：半角英数字 16文字	
ファイル・フォルダーの最大数※4		［CD-R/RW］ファイル数：999 フォルダー数：255	［SD/USB］ファイル数：9999 フォルダー数：999
フォルダー階層の最大数		10階層	
タグ	規格	ID3 タグ Ver.2.2、2.3、2.4※5	WMA タグ※5
	表示する情報	タイトル、アルバム名、アーティスト名	
	表示最大文字数	半角英数字 32文字	

※1 DRM（デジタル著作権管理）には対応しておりません。
※2 WMA9 Professional / WMA9 Lossless / WMA10以降 には対応しておりません。
※3 上記対応ビットレートの範囲でVBR対応。ただし、可変ビットレート再生時には時間がずれることがあります。
※4 ファイル・フォルダーの最大数を超過すると、正常に動作しません。
※5 ID3タグ・WMAタグとは、MP3ファイルやWMAファイルに音源タイトルやアーティスト名などを書き込んだ情報のことです。市販のソフトウェアなどを使用して情報を書き込むことで、各タグに対応した機器等で情報を表示させることができます。本機でも、タグ情報のうち、タイトル・アルバム名・アーティスト名を表示させることができます。ID3タグ Ver2.4に関しては、文字コードUTF-8は非対応です。

※上記の条件に合致したものでも、CD-R/RW、SDカード、USBメモリーの特性、記録状態などにより、本機では使用できないことがあります。

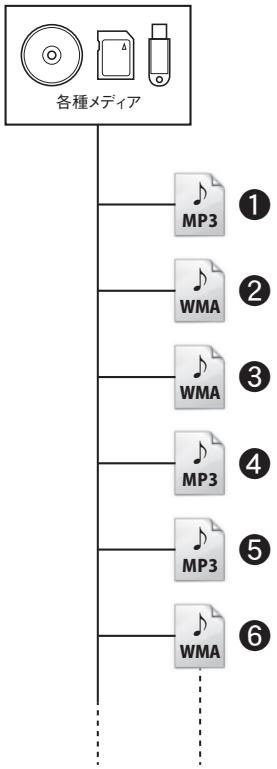
□音源ファイルの再生順について

●フォルダーを作成しない場合

20曲程度でしたらこちらの方法をお勧めします。

メディアに転送された順

例）　※上から転送順です。❶＝再生順



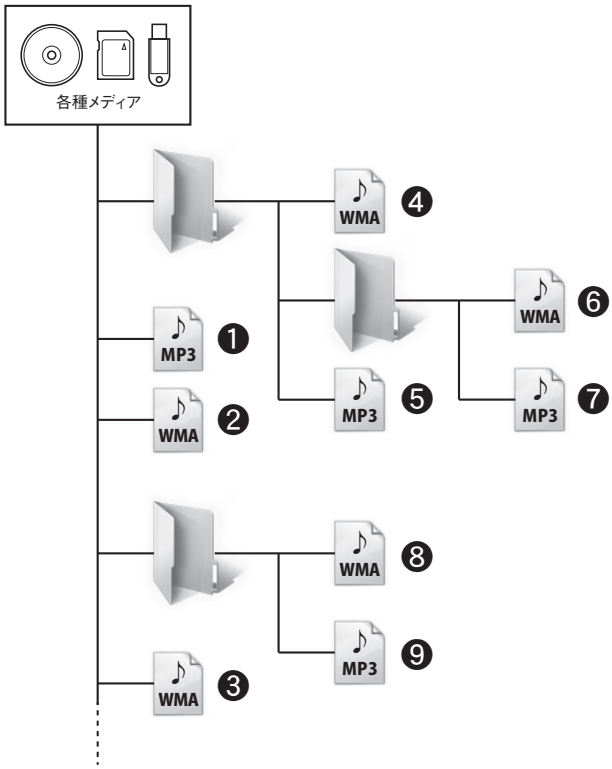
●フォルダーを作成する場合

多数のアルバムを収録する場合はこちらをご覧ください。

Ⓐメディア直下に転送された音源ファイル
↓
Ⓑメディア直下に作成されたフォルダーに転送された音源ファイル
↓
Ⓒ“Ⓑ”のフォルダー内に作成されたフォルダーにコピーされた音源ファイル

※フォルダー内での再生順は音源ファイル名ではなく、転送された順になります。

例）　※上から転送順です。❶＝再生順



※フォルダーは最大10階層まで対応しています。
※音源ファイルのファイル名やファイル形式（MP3、WMA）は再生順に関係ありません。
※メディアにファイルを転送した後にそのファイルのプロパティ及びファイル名を編集すると、再生順序が変更になる場合がありますので、転送前に編集してください。
※メディアに多くのフォルダーや音源ファイルが収録されている場合、読み込み完了までに時間がかかる場合があります。

各部の名称と説明

再生/一時停止ボタン
メディアの再生を始めるときに押します。
再生を一時停止（ポーズ）する、一時停止（ポーズ）から再生を再開するときは、このボタンを押します。

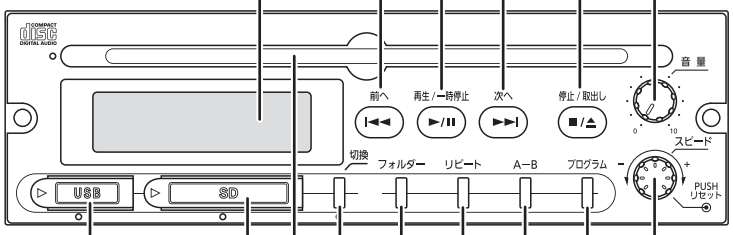
スキップ/サーチボタン（前へ）
曲(トラック)の戻り選択をするときに押します。再生中、このボタンを2秒以上押し続けると曲を早戻しします。

ディスプレイ
操作または動作状態を表示します。
P19の説明をご覧ください。

スキップ/サーチボタン（次へ）
曲(トラック)の送り選択をするときに押します。
再生中、このボタンを2秒以上押し続けると曲を早送りします。

停止/取出しボタン
再生を停止するときに押します。CDを取り出すときは停止中にこのボタンを押します。
また、各々の操作を途中で取り消す（キャンセル）場合はこのボタンを押してください。

音量調節つまみ
音量を調節するときに使用します。



スピード調節つまみ
再生スピードを調節するときに使用します。つまみを押すと元のスピードに戻ります。
P30の説明をご覧ください。

USBメモリー挿入口
ダストカバーを外しUSBメモリーを挿入してください。
P24の説明をご覧ください。

プログラムボタン
プログラム再生のプログラム内容を設定するときに押します。
P28の説明をご覧ください。

SDカード挿入口
ダストカバーを外しSDカードを挿入してください。
P22の説明をご覧ください。

A-Bリピートボタン
A-Bリピート再生の開始点と終了点を設定するときに押します。
P27の説明をご覧ください。

CD挿入口
CDを挿入します。
P20の説明をご覧ください。

リピートボタン
リピート再生やランダム再生をするときに押します。
P27の説明をご覧ください。

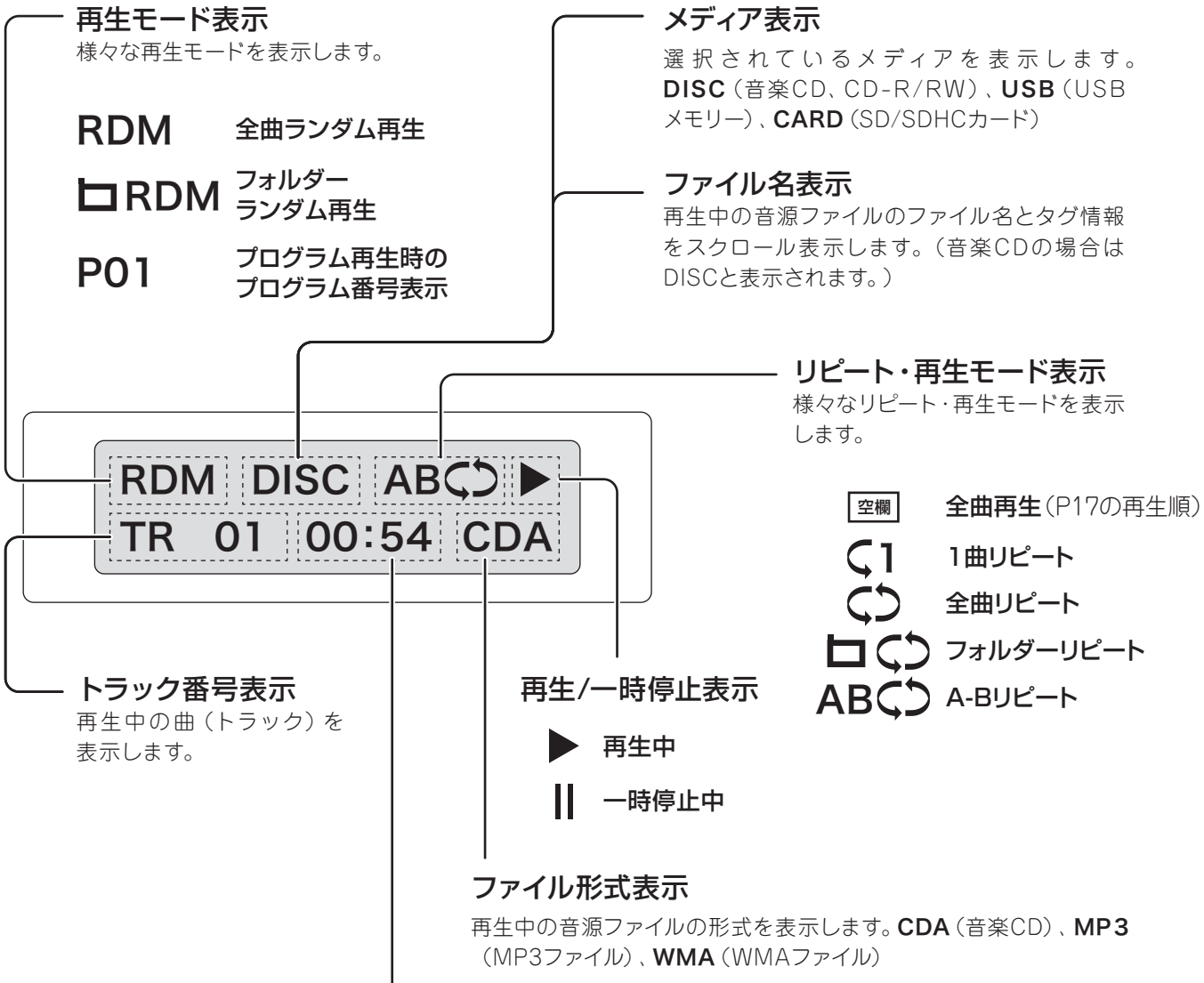
切換ボタン
再生するメディアを切り換えるときに押します。

フォルダーボタン
再生するフォルダーを切り換えるときに押します。音楽CDを再生する場合は、使用できません。
P26の説明をご覧ください。

(ディスプレイ部の名称と説明)

ディスプレイのバックライトは停止状態、メディア未挿入状態が3分継続すると消灯します。

●再生メディアや再生状態によって表示の仕方や場所が異なります。下記は代表的な表示の説明です。詳しくはP20からの操作方法の説明をご覧ください。



注意...

本機はVBR(可変ビットレート)のMP3、WMAファイルの再生、早送り、早戻し時に固定ビットレートとして時間表示をするため、実際の時間表示とは大幅なずれが生じることがありますが、異常ではありません。

CD再生の仕方

音楽CD、CD-R/RWの挿入から取り出しまで

1.音量を0にする

□本機及び、組込機器の音量を全て0にしてください。

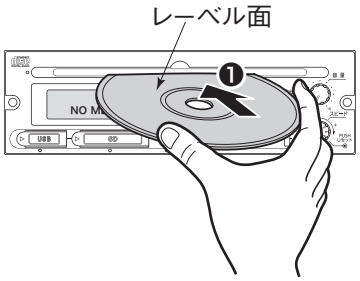
> ⚠注意　各音量を最小にせずに電源を入れると、突然大きな音が出力され、聴力障害などの原因になることがあります。

2.電源を入れる

□組込機器の電源スイッチを押して電源を入れ、組込機器の電源表示灯が点灯していることを確認してください。

※メディアが見つからない場合、**[NO DISC]**と表示し、メディアの挿入待ちとなります。

3.CDを挿入する



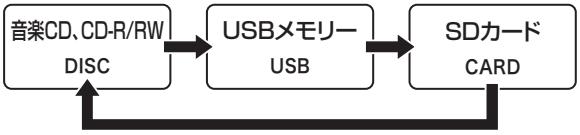
❶CDのレーベル面を上にして、CD挿入口へ挿入してください。
音楽CDの場合、総トラック数及び総再生時間を表示し、停止状態になります。
MP3、WMAファイルの場合、総フォルダー数と総トラック数を表示し、停止状態になります。

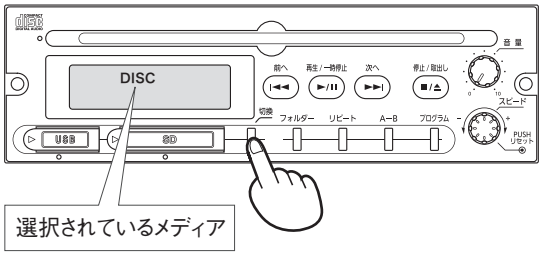
※電源が入っていない状態では、CDを入れることはできません。
※すでにCDが入っている状態で、CDを入れることはできません。
※シングルCD(8cmCD)は使用できません。取り出せなくなる恐れがあります、使用しないでください。

※他のメディアが選択されている状態でCDを挿入しても、選択中のメディアは切り換わりません。

4.再生するメディアを選択する

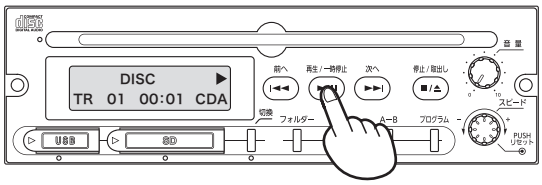
□切換ボタンを押して、**[DISC]**を選択してください。
押す度にメディアが切り換わります。





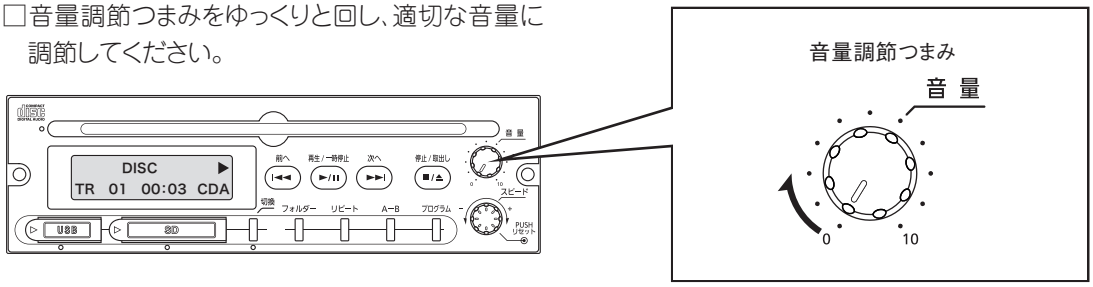
5.再生を開始する

□停止中に再生/一時停止ボタンを押すと、再生を開始します。



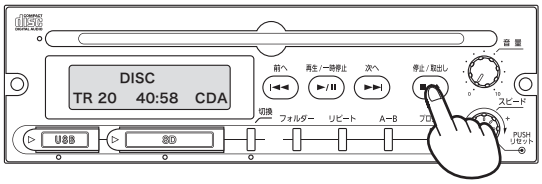
6.音量を調節する

□音量調節つまみをゆっくりと回し、適切な音量に調節してください。



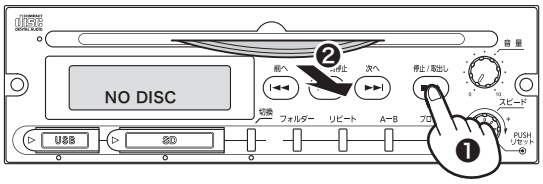
7.再生を停止させる

□再生中、一時停止中に停止/取出しボタンを押すと、停止状態になります。



8.CDを取り出す

❶停止中に停止/取出しボタンを押してください。
❷CDが排出されますので、まっすぐ引き抜いてください。



※停止/取出しボタンでCDを排出した後、そのまま約10秒間放置しますと、自動的にCDを引き込みます。

メモ… SDカード/USBメモリーの再生中にCDを取出したい場合、停止/取出しボタンを3秒以上長押しすると、SDカード/USBメモリーの再生を止めることなく、CDが排出されます。

SDカード再生の仕方

SD/SDHCカードの挿入から取り出しまで

1.音量を0にする

□本機及び、組込機器の音量を全て0にしてください。

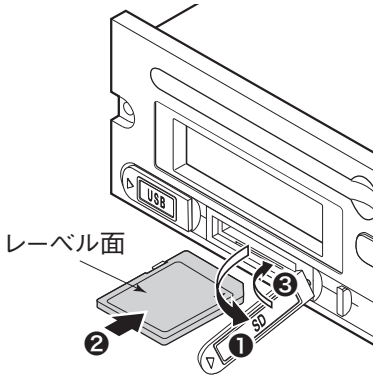
> ⚠注意 各音量を最小にせずに電源を入れると、突然大きな音が出力され、聴力障害などの原因になることがあります。

2.電源を入れる

□組込機器の電源スイッチを押して電源を入れ、組込機器の電源表示灯が点灯していることを確認してください。

※メディアが見つからない場合、**[NO DISC]**と表示し、メディアの挿入待ちとなります。

3.SDカードを挿入する

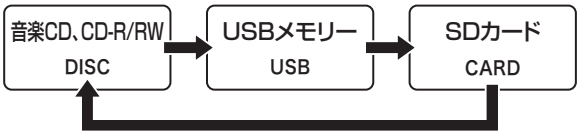


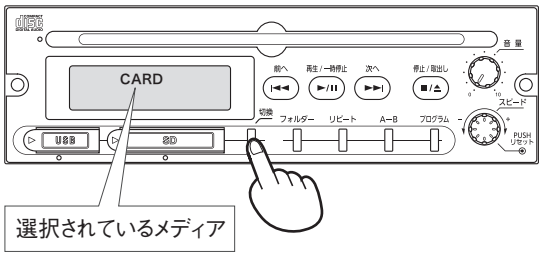
❶SDカード挿入口のダストカバーを外します。
❷SDカードの向きに気をつけて、SDカード挿入口へ挿入してください。
総フォルダー数と総トラック数を表示し、停止状態になります。
❸ダストカバーを取り付けてください。

※他のメディアが選択されている状態でSDカードを挿入しても、選択中のメディアは切り換わりません。

4.再生するメディアを選択する

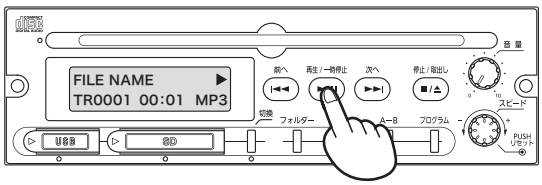
□切換ボタンを押して、**[CARD]**を選択してください。
押す度にメディアが切り換わります。





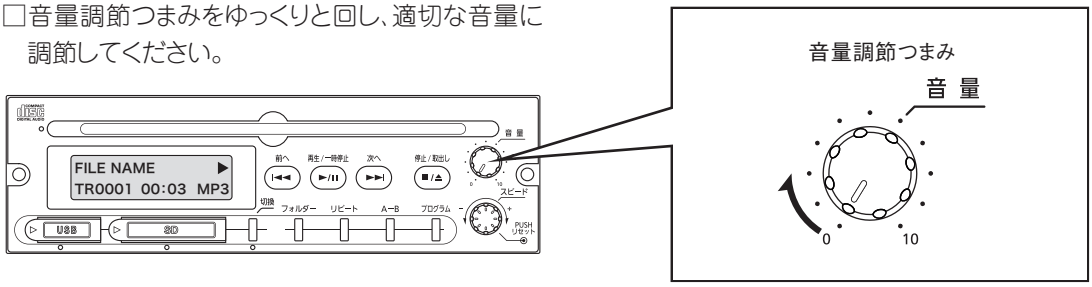
5.再生を開始する

□停止中に再生/一時停止ボタンを押すと、再生を開始します。



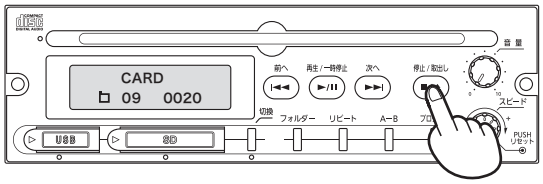
6.音量を調節する

□音量調節つまみをゆっくりと回し、適切な音量に調節してください。



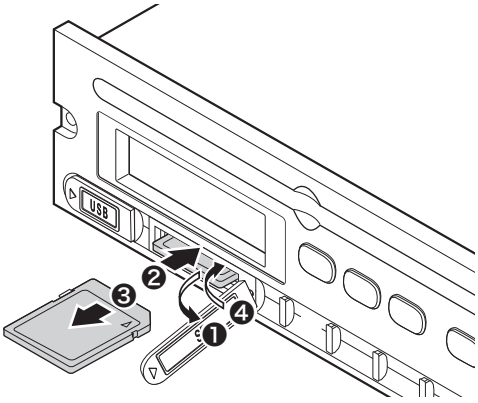
7.再生を停止させる

□再生中、一時停止中に停止/取出しボタンを押すと、停止状態になります。



8.SDカードを取り外す

❶ダストカバーを外してください。
❷SDカードを押し込み、ロックを外してください。
❸SDカードをまっすぐ引き抜いてください。
❹ダストカバーを取り付けてください。
※再生中にSDカードを取り外すとデータが破損する場合があります。



USBメモリー再生の仕方

USBメモリーの挿入から取り出しまで

1.音量を0にする

□本機及び、組込機器の音量を全て0にしてください。

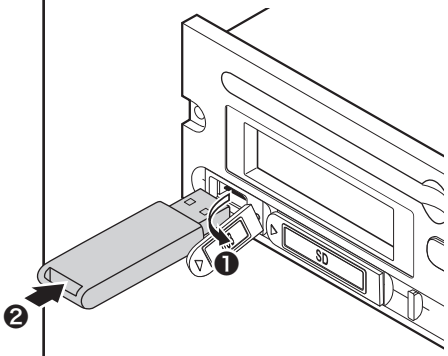
> ⚠注意　各音量を最小にせずに電源を入れると、突然大きな音が出力され、聴力障害などの原因になることがあります。

2.電源を入れる

□組込機器の電源スイッチを押して電源を入れ、組込機器の電源表示灯が点灯していることを確認してください。

※メディアが見つからない場合、**[NO DISC]**と表示し、メディアの挿入待ちとなります。

3.USBメモリーを挿入する



❶USBメモリー挿入口のダストカバーを外します。

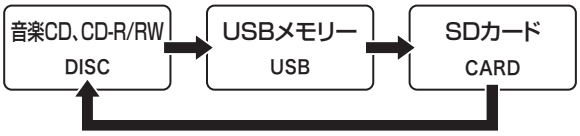
❷USB端子の向きに気をつけて、USB挿入口へ挿入してください。
総フォルダー数と総トラック数を表示し、停止状態になります。

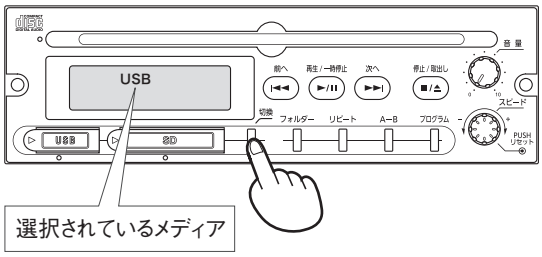
> **注意…** USBメモリーを対象とします。携帯音楽プレーヤーなど他のUSB機器は動作しません。
> （充電も含めて、本機からの給電は行わないでください。機器の故障を招く場合があります。）

※他のメディアが選択されている状態でUSBメモリーを挿入しても、選択中のメディアは切り換わりません。

4.再生するメディアを選択する

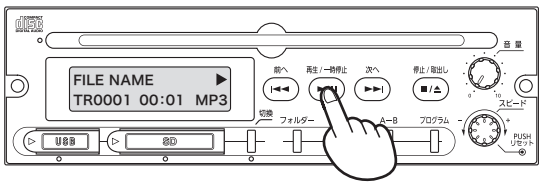
□切換ボタンを押して、**[USB]**を選択してください。
押す度にメディアが切り換わります。





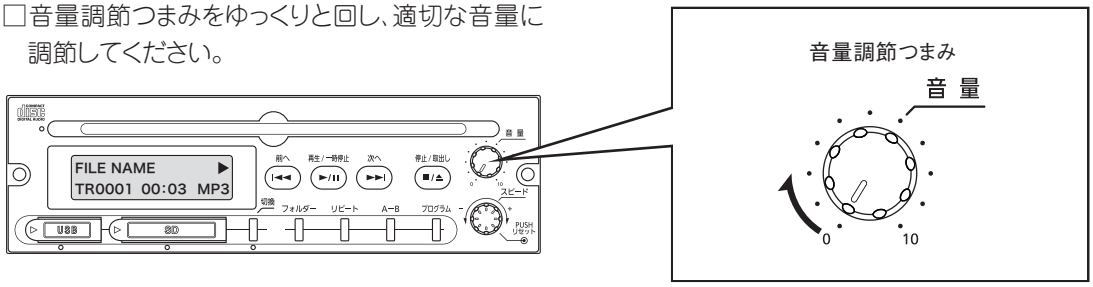
5.再生を開始する

□停止中に再生/一時停止ボタンを押すと、再生を開始します。



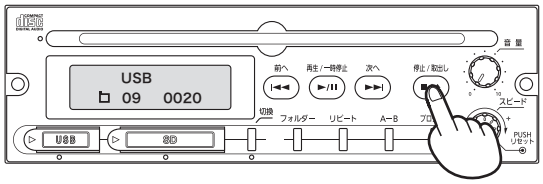
6.音量を調節する

□音量調節つまみをゆっくりと回し、適切な音量に調節してください。



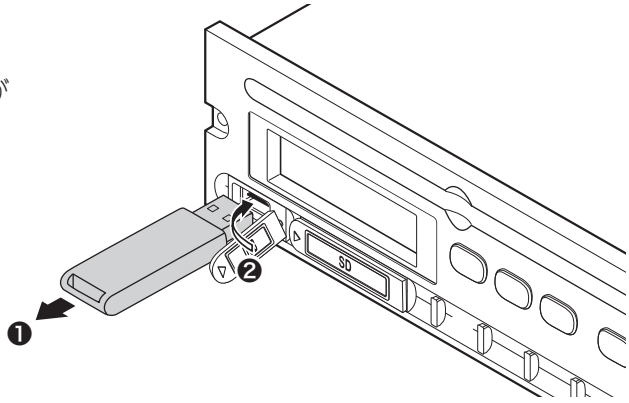
7.再生を停止させる

□再生中、一時停止中に停止/取出しボタンを押すと、停止状態になります。



8.USBメモリーを取り外す

❶USBメモリーを引き抜いてください。
❷ダストカバーを取り付けてください。
※再生中にUSBメモリーを引き抜くとデータが破損する場合があります。

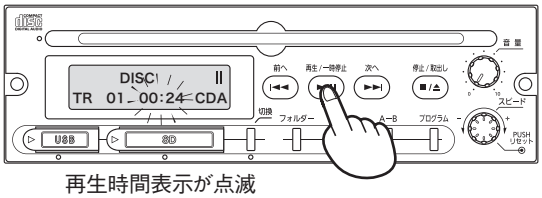


再生の仕方（CD・SDカード・USBメモリー共通）

再生を一時停止（ポーズ）するには

再生/一時停止ボタンを押す

□再生中に再生/一時停止ボタンを押すと、ボタンを押した位置で再生を一時停止します。一時停止中に再生/一時停止ボタンを押すと、一時停止していた位置から再生を再開します。



再生時間表示が点滅

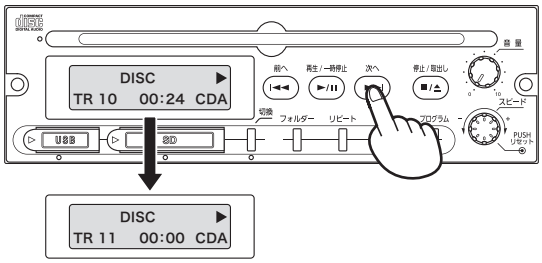
曲を選ぶには

●次の曲を聴きたいときには

スキップ/サーチボタン[►►I]を押す

□再生中･一時停止中にスキップ/サーチボタン[►►I]を押すと次の曲の頭に移動し再生を開始します。

□停止中に押すと、次の曲番号に表示が換わります。MP3、WMAファイルの場合、フォルダーボタンを押すことで、フォルダーも切り換えることができます。



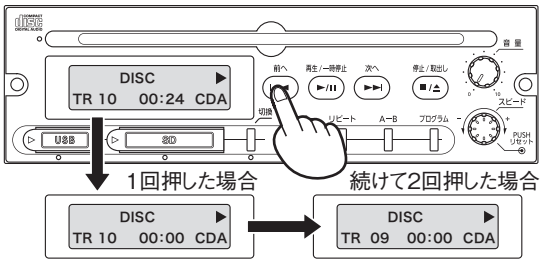
●前の曲を聴きたいときには

スキップ/サーチボタン[I◄◄]を押す

□再生中･一時停止中にスキップ/サーチボタン[I◄◄]を押すと再生中の曲の頭に戻り再生を開始します。

□曲の頭でスキップ/サーチボタン[I◄◄]を押すと、前の曲の頭へ移動し、再生を開始します。

□停止中に押すと、前の曲番号に表示が換わります。



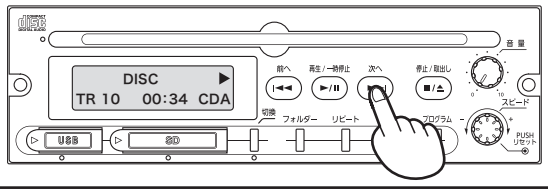
早送り／早戻しするには

●曲を早送りをするには

スキップ/サーチボタン[►►I]を押し続ける

□再生中･一時停止中にスキップ/サーチボタン[►►I]を2秒以上押し続けると早送りします。

□スキップ/サーチボタン[►►I]を離すと、その位置から再生を開始します。

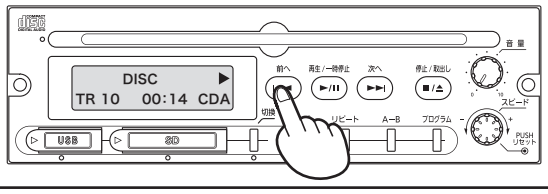


●曲を早戻しするには

スキップ/サーチボタン[I◄◄]を押し続ける

□再生中･一時停止中にスキップ/サーチボタン[I◄◄]を2秒以上押し続けると早戻しします。

□スキップ/サーチボタン[I◄◄]を離すと、その位置から再生を開始します。



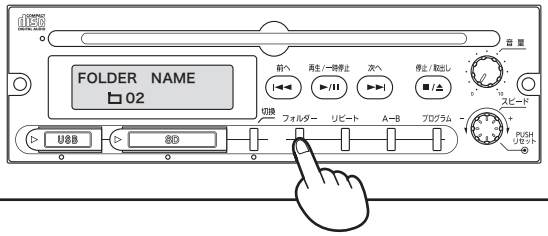
再生するフォルダーを切り換えるには

フォルダーボタンを押す

□再生中にフォルダーボタンを押すと、次のフォルダー内の一曲目を再生します。

□停止中に押すと次のフォルダーに表示が切り換わります。

※ランダム再生時、フォルダーの切り換えはできません。

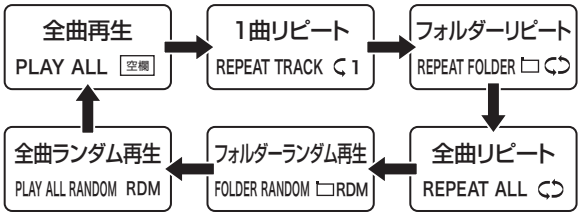


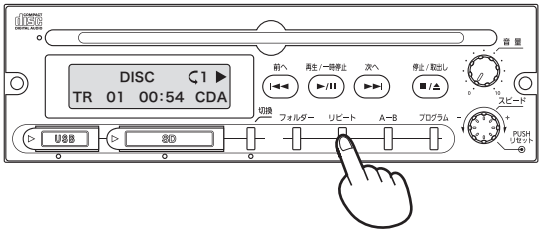
リピート・ランダム再生の仕方

リピート･ランダム再生をするには

リピートボタンを押す

□リピートボタンを押す度に、下図のようにリピート･ランダム再生が切り換わります。





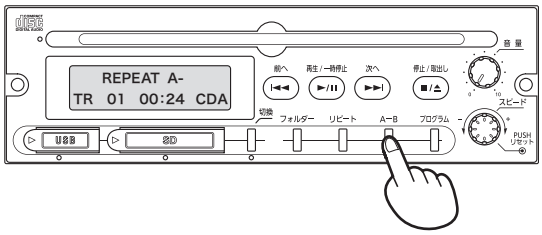
再生モード	説　明
全曲再生 空欄	メディア内の曲を全て再生した後、停止します。
1曲リピート 1	再生中の曲を、繰り返し再生します。
フォルダーリピート	フォルダー内の曲を全て再生し、一巡すればフォルダー内の先頭の曲へ戻り再生を継続します。
全曲リピート	メディア内の曲を全て再生し、一巡すれば先頭の曲へ戻り再生を継続します。
フォルダーランダム再生 RDM	フォルダー内の全ての曲をランダムに再生し、一巡すると停止します。
全曲ランダム再生 RDM	メディア内の全ての曲をランダムに再生し、一巡すると停止します。

※音楽CD再生時は、フォルダーリピート及びフォルダーランダム再生はありません。

指定した部分を繰り返し聴くには（A-Bリピート再生 AB）

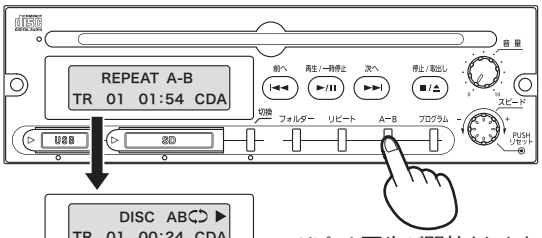
①A-Bリピートボタンを押す（開始点の設定）

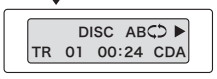
□再生中、繰り返したい部分の開始点でA-Bリピートボタンを押します。



②A-Bリピートボタンをもう一度押す（終了点の設定）

□繰り返したい部分の終了点でA-Bリピートボタンを押します。



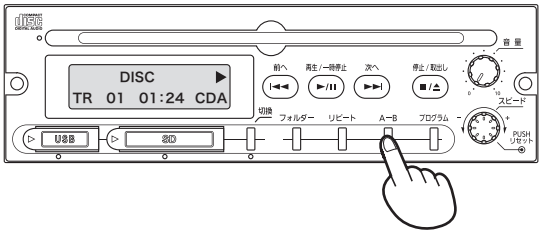


A-Bリピート再生が開始されます。

●A-Bリピート再生を解除するには

A-Bリピート再生中にA-Bリピートボタンを押す

□ディスプレイの"AB"が消えてA-Bリピート再生が解除され通常の再生に戻ります。



※A-Bリピートは、最終曲から先頭曲への設定や、その他のリピート設定との同時設定はできません。

※開始点設定後からA-Bリピート再生中のスキップ操作では、開始点と終了点を超える曲の移動はできません。
また、早戻し/早送りを行うと、正常にリピート再生が行われない場合があります。

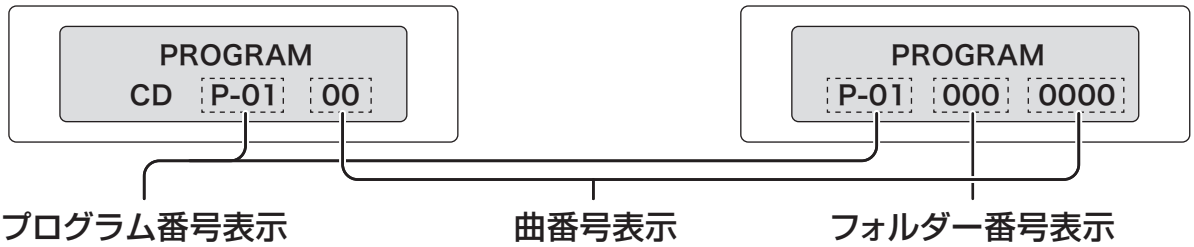
プログラム再生の仕方

プログラム再生をするには

□最大64曲までお好みの順番で登録し、再生することができます。ディスプレイ表示を参考に以下の手順でプログラムの登録、確認、変更等を行ってください。

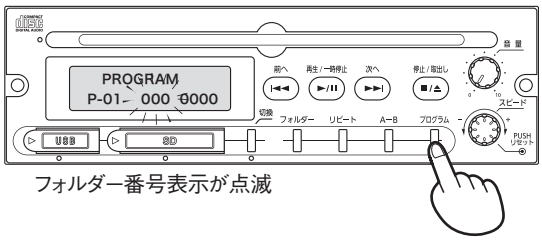
メモ… 20秒操作しない、またはプログラムボタンを1秒以上長押しすると、プログラム登録内容を残したまま、プログラム再生モードを抜けます。ただし、登録中・編集中の内容は破棄されます。再度編集を行う場合は、プログラムボタンを押してください。

●音楽CDの場合 ※フォルダーに関する表示・手順はありません。 **●MP3、WMAファイルの場合**

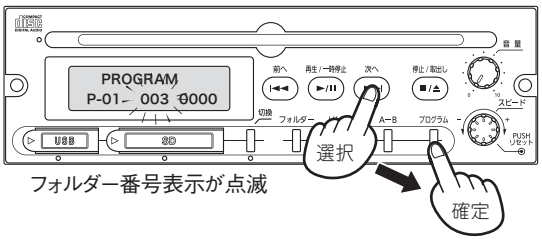


プログラムを登録する

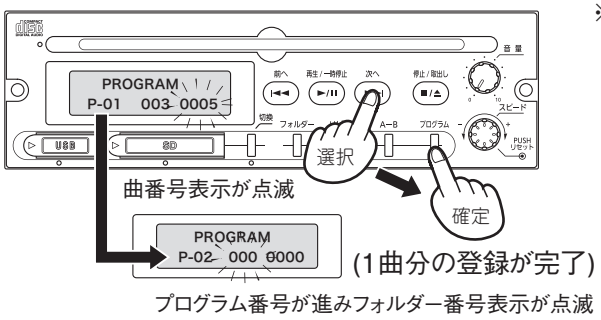
①停止中にプログラムボタンを押す



②スキップ/サーチボタンを押し、プログラムしたい曲のフォルダー番号を表示させ、プログラムボタンで確定します。



③スキップ/サーチボタンを押し、プログラムしたい曲番号を表示させ、プログラムボタンで確定します。

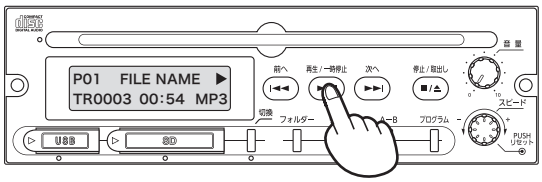


④登録したい曲数だけ、②、③の手順を繰り返します。(最大64曲まで登録可能)

※音楽CDの場合は、②の手順は行いません。また、曲番のみの選択となりますので、フォルダー番号表示は点滅しません。

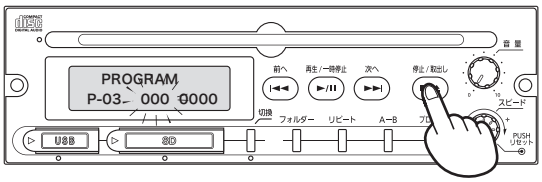
プログラム再生をする

□プログラムの登録完了後、再生/一時停止ボタンを押すと、プログラムした曲順で再生します。



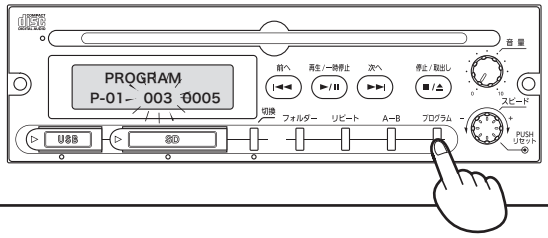
プログラム再生を停止する

□プログラム再生中に停止/取出しボタンで再生を停止できます。また、上記"プログラムを登録する"の①の状態に戻ります。



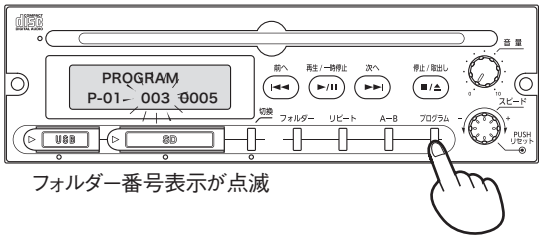
プログラム内容を確認する

□左記“プログラムを登録する”の③で登録完了後、プログラムボタンを押すと、プログラムの確認ができます。プログラムボタンを押す毎に登録した順に曲番号を表示していきます。



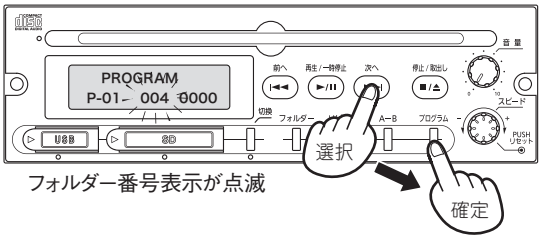
プログラム内容を変更する

①プログラムボタンを押して変更したい曲番号を表示させます。



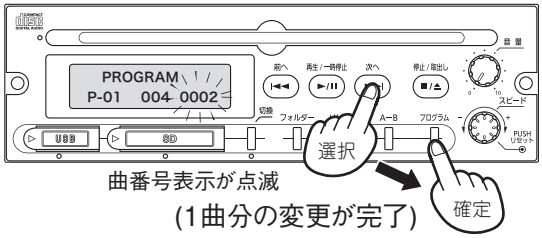
フォルダー番号表示が点滅

②スキップ/サーチボタンを押してフォルダー番号を変更し、プログラムボタンで確定します。



フォルダー番号表示が点滅

③スキップ/サーチボタンを押して曲番号を変更し、プログラムボタンで確定します。(変更完了)



曲番号表示が点滅
(1曲分の変更が完了)

④修正したい曲数だけ、①～③の手順を繰り返します。

※音楽CD再生時は、②の手順は行いません。
また、曲番のみの選択となりますので、フォルダー番号表示は点滅しません。

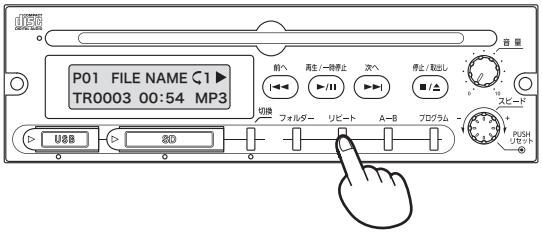
プログラム内容を消去する

□以下の操作をすると、プログラム再生モードから抜けて、プログラム登録した内容が消去されます。

●プログラムの登録、確認、変更中に、停止/取出しボタンを押す。　●切換ボタンを押す。
●プログラム登録を行ったメディアを抜く。　●組込機器の電源をOFFにする。

プログラム再生中にリピート再生を切り換える

□リピートボタンを押す度に、下図のようにリピート再生が切り換わります。



再生モード	説　明
全曲再生　空欄	プログラム登録した曲を全て再生した後、停止します。
1曲リピート　⊂1	再生中の曲を、繰返し再生します。
全曲リピート　⊂⊃	プログラム登録した曲を全て再生し、一巡すれば先頭の曲へ戻り再生を継続します。

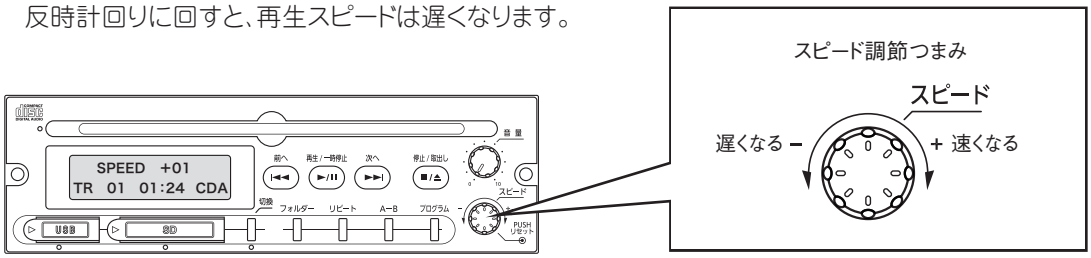
※プログラム再生中は、複数曲間のA-Bリピートを設定できません。また、A-Bリピート再生中に早戻し/早送りを行うと、正常にリピート再生が行われない場合があります。

再生スピードの調節の仕方

再生スピードを調節するには

スピード調節つまみを回す

□スピード調節つまみを回し、再生スピードを調節します。
時計回りに回すと、再生スピードは速くなります。
反時計回りに回すと、再生スピードは遅くなります。

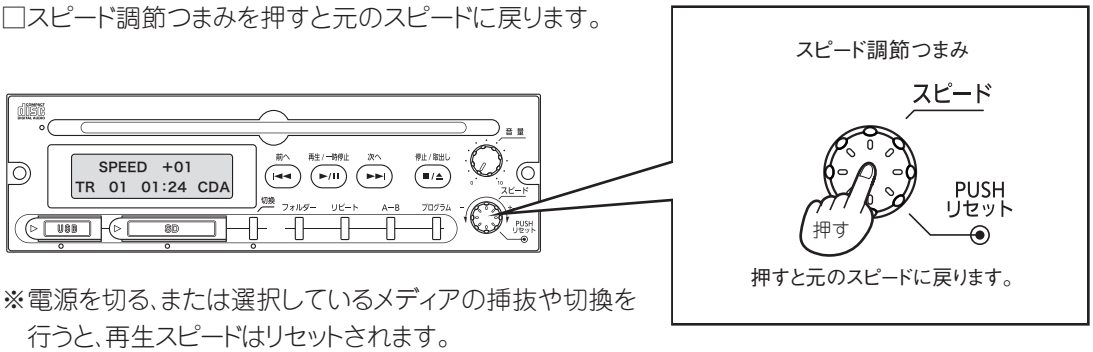


◇曲の再生スピードは±10段階に調節することができます。
※スピード調節と同時に音程も変化します。

再生スピードを元に戻すには

スピード調節つまみを押す

□スピード調節つまみを押すと元のスピードに戻ります。



※電源を切る、または選択しているメディアの挿抜や切換を行うと、再生スピードはリセットされます。

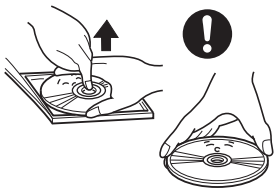
著作権法について

■あなたが本機を利用して著作権の対象となっている著作物を複製、編集などしたものや、他人の講演などを録音したものは、個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用できません。

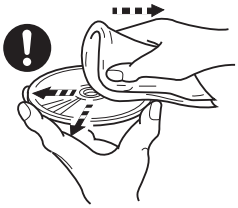
●放送コード、CD、その他の録音物や他人の演奏などは、音楽の歌詞・楽曲と同じく著作権法により保護されています。従って、個人使用の範囲を超えて、それらを録音、編集して、販売・レンタル・譲渡したり、営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
●詳しい内容や、著作権物に関する許諾のための手続きについては、「日本音楽著作権協会」（JASRAC）の本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

コンパクトディスク（CD）について

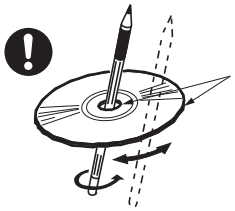
コンパクトディスクの取扱かた



●保護ケースからコンパクトディスクを取り出す場合、図のようにケース中心部を押し、コンパクトディスクの両端を持ってください。また、ディスク面には直接手を触れないようにしてください。



●コンパクトディスクを拭く場合は、乾いた柔らかい布で図のように、中心から外に向かって拭いてください。

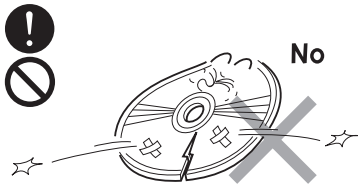


●新しいディスクには、ディスクの周囲に“バリ”が残っていることがあります。このようなディスクをご使用になると、動作しなかったり音飛びの原因となります。バリのあるディスクは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。

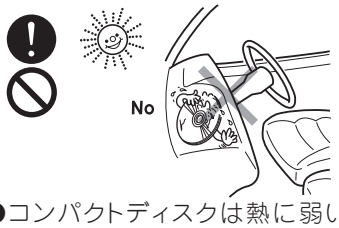
コンパクトディスク使用上の注意

●ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどでキズをつけたりしないでください。

●コンパクトディスクは、きれいなものをご使用ください。もし、汚れている場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは絶対に使用しないでください。



●大きいキズ、変形、ヒビなどがあるコンパクトディスクは使用しないでください。誤動作や故障の原因となる場合があります。



●コンパクトディスクは熱に弱いので、直射日光のあたる場所やヒーターなどの近くに置かないでください。

⚠注意 **市販のCD保護シートや、スタビライザーなどを装着したディスクは使用しないでください。メカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクを傷つける場合があります。**

ご使用になる前に

■ご確認事項

1.本機は“COMPACT disc DIGITAL AUDIO”表示のあるコンパクトディスク12cm以外のご使用はできません。CD-R、CD-RWなどに書込まれた音楽データについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますのでご注意ください。

■取扱上のご注意

1.冷えた場所から急激に温度が高くなる場所へ移動し、すぐに本機を使用すると、ディスクや光学部品が結露して正常な動作をおこなわないことがあります。ディスクが結露しているときは、柔らかい布で拭いてください。光学部品が結露しているときは、1時間ほど放置しておくと自然に結露がとれ正常に動作します。

2.本機を傾けた状態で使用すると正常に動作しないばかりでなくメカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクに傷を付ける場合があります。

3.CD挿入口からのディスクの出し入れは無理におこなわないでください、本機の故障やディスクに傷を付ける恐れがあります。

4.ディスク走行中あるいはディスクをイジェクトしている状態で電源スイッチを切ったり、ACプラグを抜いたり、DC電源の電圧が異常に低下したりしますと、ディスクが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、ACプラグをコンセントに差すか、乾電池を交換して、電源スイッチを入れてディスクを取り出してください。

点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

⚠ 警告

●次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。

●本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

症　　状	点　検　項　目	対　　策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
有線マイクの音声が出てこない	マイクのトークスイッチは入っていますか	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
スピーカーより音が出ない	スピーカー接続コネクターは確実に接続されていますか。	確認してください。
	スピーカー出力つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
音がわれる	出力レベルメーターの赤色LEDが常時、点灯していませんか。	赤色LEDが常時、点灯しないように音量を調節してください。
音質がおかしい	正しくイコライザーが使用されていますか。	イコライザー調節つまみの説明をよく読んで調節してください。
雑音が出る	本機やスピーカーコード、マイクコードなどがノイズを発生する機器の近くにありませんか。	ノイズを発生する機器から遠ざけてください。
外部機器の音が出ないまたは小さい	接続機器及び本機の入力音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	ライン入力の説明をご覧ください。

ワイヤレスチューナーユニット部

症　　状	点　検　項　目	対　　策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
ワイヤレスマイクの音声が出てこない	マイクのトークスイッチは入っていますか	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクの電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗もチェックしてください。
	マイクとチューナーユニットの周波数は同じですか。	グループ／チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスチューナーユニットの音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。

CDプレーヤー部

	症　状	点検項目 [表示部]	対　策
全般	全く動作しない	キャリングアンプ本体の電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
		ディスプレイ表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	演奏時間は進んでいるが音声が出てこない	音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	曲名などが文字化けして表示される	全角文字で入力していませんか。	半角英数字で入力してください。
		ID3タグのバージョンがID3v2.4になっていませんか。もしくは、曲名などを入れる際、文字コードの設定が「UTF-8」になっていませんか。	ID3タグのバージョンをID3v2.3にして、曲名などを入れてください。また、曲名などを入れる際、文字コード設定は「UTF-16」で入力してください。
	曲をスキップできない	A-Bリピート設定中ではありませんか。	A-Bリピート設定を解除してください。
	正常にA-Bリピート再生できない	早戻し/早送りを行っていませんか。	A-Bリピート再生中は早戻し/早送りをしないでください。
		プログラム再生中に、複数曲間のA-Bリピートを設定しようとしていませんか?	プログラム再生中は、複数曲間のA-Bリピートを設定できません。プログラム再生モードを抜けるか、同じ曲内でA-Bリピートを設定してください。
CD	全く動作しない CDを認識しない 再生できない	CDが入っていますか。 **[NO DISC]**	CDを挿入してください。
		CDを裏表逆に入れていませんか。 **[ERROR] [NO FILE]**	CDのレーベル面を上にして入れてください。
		CD-R/RWに転送した音源ファイルのデータ形式は正しいですか。 **[NO FILE]**	MP3、WMA形式の音源ファイルを使用してください。P16の説明をご覧ください。
		メディア内のファイル・フォルダー数が最大数を超えていませんか。 **[OVER FILE] [OVER FOLDER]**	メディア内のファイル・フォルダー数が最大数を超えないようにしてください。P16の説明をご覧ください。
	CDが入らない	本機の中にCDが入っていませんか。	停止/取出しボタンを押して、CDを取り出してください。
		ディスプレイに **[ERROR]** が表示されていませんか。	CDが途中で引っ掛かっているため、挿入が完了していません。停止/取出しボタンを押してCDを排出し、再度挿入してください。
	CDが取り出せない	極端な電源変動による誤動作、または機構の誤動作。	取り出せないときは販売店などへご相談ください。ドライバーなどで無理に取り出さないでください。
	音飛びする ノイズなどが入る	CDが汚れていませんか。	CDを柔らかい布で拭いてください。
		CDに傷やそりがありませんか。	傷やそりの無いCDに交換してください。
		CD-R/RWを使用していませんか。	データ書込みの状態、及び使用メディアの条件などにより、正常に再生できない場合があります。正常に再生できるものと交換してください。
SD	全く動作しない SDカードを認識しない 再生できない	SDカードが入っていますか。 **[NO CARD]**	SDカードを挿入してください。
		SDカードに転送した音源ファイルのデータ形式は正しいですか。 **[NO FILE]**	MP3/WMA形式の音源ファイルを使用してください。P16の説明をご覧ください。
		SDカードのフォーマット形式は正しいですか。 **[NO FILE]**	P16に従ってFAT形式でフォーマットしてください。(NTFS／exFATは非対応です)
		メディア内のファイル・フォルダー数が最大数を超えていませんか。 **[OVER FILE] [OVER FOLDER]**	メディア内のファイル・フォルダー数が最大数を超えないようにしてください。P16の説明をご覧ください。
	SDカードが入らない	本機の中にSDカードが入っていませんか。	SDカードを取り出してください。
		SDカードを裏表逆に入れていませんか。	SDカードのレーベル面を上にして入れてください。

点検方法

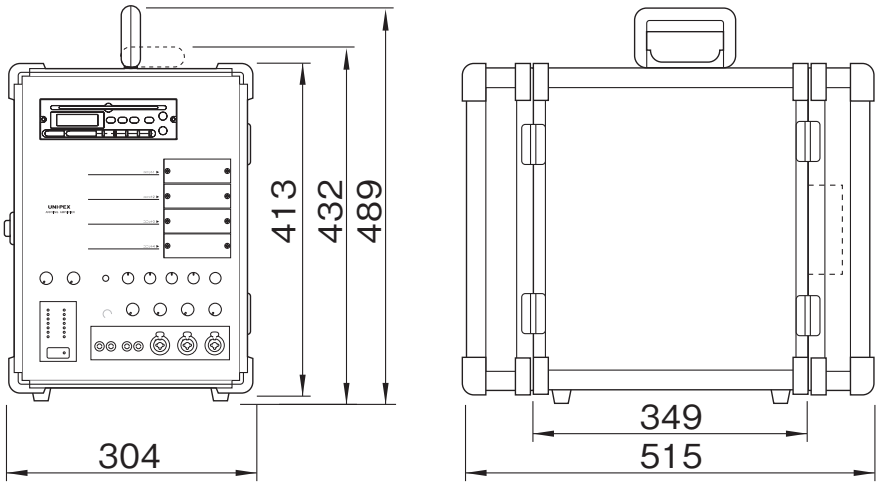
	症　状	点検項目［表示部］	対　策
USB	全く動作しない USBメモリーを認識しない 再生できない	USBメモリーが入っていますか。 **[NO USB]**	USBメモリーを挿入してください。
		USBメモリーに転送した音源ファイルのデータ形式は正しいですか。 **[NO FILE]**	MP3/WMA形式の音源ファイルを使用してください。 P16の説明をご覧ください。
		USBメモリーのフォーマット形式は正しいですか。 **[NO FILE]**	P16に従ってFAT形式でフォーマットしてください。 (NTFS／exFATは非対応です)
		パスワードロック機能付のUSBメモリーを使用していませんか。 **[NO FILE]**	パスワードロック機能無しのUSBメモリーを使用してください。
		USBメモリー以外を入れていませんか。 **[USB-SPEC OVER PLEASE REMOVE]** ※点滅表示する場合もあります。	そのUSB機器を外してください。 外しても元に戻らない場合は販売店などへご相談ください。
		メディア内のファイル・フォルダー数が最大数を超えていませんか。 **[OVER FILE] [OVER FOLDER]**	メディア内のファイル・フォルダー数が最大数を超えないようにしてください。P16の説明をご覧ください。
	USBメモリーが入らない	USBメモリーのUSB端子の向きを逆に入れていませんか。	USB端子の向きを確認し、向きを合わせて挿入してください。

定格

品番	CGA-704CDA
使用電源	AC100V 50/60Hz ／ DC14V（12Vバッテリー）
定格消費電力	120W（電気用品安全法による測定方法に基づく）
消費電流	AC2.8A（定格出力時） DC11A（定格出力時）
定格出力	35W×2
出力負荷 インピーダンス	290Ω×2　平衡 4Ω(4～16Ωスピーカー使用可能)×2　不平衡
録音出力	−10dBV　2.2kΩ　不平衡
ライン出力	0dBV　600Ω　不平衡
ひずみ率	5%以下(1kHz 定格出力時)
周波数特性	50Hz～18kHz　偏差±3dB(ライン入力　定格出力−10dB時) 100Hz～10kHz　偏差±3dB(マイク入力　定格出力−10dB時)
音質特性	100Hz / 330Hz / 1kHz / 3.3kHz / 10kHz　5ポイントイコライザー　±10dB（ライン入力　各周波数ポイント基準)
入力感度及び インピーダンス	マイク 1～3：−62dBV　600Ω　電子平衡　音量調節器付 ライン：−22dBV　10kΩ　不平衡　音量調節器付
信号対雑音比	65dB以上
アンテナ入力	BNCコネクター×2　アンテナ感度切換スイッチ付　ファンタム電源送り(簡易型ワイヤレスアンテナ取付可能)
動作表示	電源：LED(緑)、出力表示：LED(緑×4／赤×3) 2系統
付帯機能	フェーダー機能(減衰量調節付)：マイク、ワイヤレス入力によりライン、CD音量が減衰 リミッター機能：マイク、ワイヤレス入力において過大入力時のひずみを軽減
使用温度範囲	0℃～＋40℃
外装	パネル(鋼鈑)：マンセルN1　近似色　ブラック　半艶塗装 ケース（アルミニウム製）：アルマイト仕上げ　シルバー色
寸法／質量	幅304mm　高さ489mm　奥行515mm／約18.8kg
付属品	取扱説明書1 、 AC接続コード 1

CDプレーヤー部	
表示	動作表示　：液晶表示 バックライト：発光ダイオード（黄緑）
適合CD	音楽CD及びCD-R/RW　※12cmのみ、8cmは非対応
適合SDカード	SDA準拠SD/SDHCカード（容量32GBまで）　※SDXCは除く
適合USBメモリー	USBマスストレージクラス準拠USBメモリー（容量32GBまで）
ファイルシステム	CD-R/RW：UDF1.02（シングルセッションに対応）　SD/USB：FAT16、FAT32
ファイル保存最大数	音楽CD　：99 MP3/WMA：999（CD-R/RW）、9999（SD/USB）（メディアの容量、および、ファイルに依存）
フォルダー識別最大数	MP3/WMA：255（CD-R/RW）、 999（SD/USB）（ルートディレクトリを含む）
音声圧縮伸長方式	MP3形式（MPEG1 Audio Layer3）、WMA形式（Windows Media Audio Ver.9）
再生ビットレート	MP3形式32kbps～320kbps、WMA形式48kbps～192kbps
再生スピードコントロール	−15%～＋15%可変
付帯機能	ギャップレス再生機能（ノンストップミックスCDのみ）、リピート選択（1曲リピート、フォルダーリピート、全曲リピート、 フォルダーランダム、全曲ランダム、A-Bリピート）、プログラム再生、音量調節、スピードコントロール、経過時間表示、 一時停止、スキップ機能、早送り早戻し機能、プログラム登録・編集・消去機能、自動バックライトオフ機能

外観寸法図 (単位：mm)



サポートのご案内

■ **修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。**
販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。
①品　名　②品　番　③お買い上げ日　④故 障 の 状 況（できるだけ具体的にお願いします）

■ **販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。**

営業所情報はホームページもしくは2次元コードにアクセスしてください。
http://www.unipex.co.jp

■ **その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。**

UNI-PEX お客様ご相談センター　**0120-56-5245** 通話料無料
受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）
携帯電話からのご利用は、
072-855-3334（通話料がかかります）

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

キャリングアンプ CGA-704CDA

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 年　月　日より 電子回路部1ヶ年、ケース（外装部）6ヶ月
お客様	お名前　様 ご住所〒 電話（　）　-
販売店	店名・住所　印 電話（　）　-

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。
お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社

保証書

保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
（This warranty is valid only in Japan）

無料修理保証の範囲
①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
②修理の際は必ず保証書の提示があること。
③当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲
（次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。）
①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
②不当な修理改造による故障、損傷。
③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
④お買上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。
⑧CDの連続使用時間が1,500時間を超えた場合の故障および損傷。

RKTC704CDA-H0-3